

平成30年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト」

(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業) 成果報告書

# 平成30年度 障がい者スポーツ 推進プログラム



平成31年3月 徳島県

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、徳島県が実施した平成30年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

## はじめに

本県におきましては、平成28年4月、障がい者が自立して社会参加し、自己の個性や能力を発揮することができる社会の実現を目指す「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」を施行し、その理念を実現するべく平成30年3月には、新たな「徳島県障がい者施策基本計画」を策定し、「障がい者スポーツの振興」に一層力を注いでいるところです。

パラリンピックにおいても、東京大会まで2年を切り、障がい者スポーツに向けた気運が一層高まった年となりました。

こうした中、本県では、平成27年度から平成29年度にかけて、スポーツ庁委託事業「地域における障がい者スポーツ普及促進事業」に取り組み、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツ活動に取り組める環境づくりのための「実践研究」事業を実施して参りました。また、障がい者スポーツの裾野の拡大、競技力の向上、相互理解の視点から、スポーツ部局、教育委員会、有識者、障がい者スポーツ関係団体等との「連携・協働体制」の構築を図ってきたところです。

本事業においては、3ヶ年の「実践研究」の成果を発展させるとともに、地域における課題解決の検証を進め、各団体が持つノウハウを活用しながら、障がい者の方が身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備に取り組みました。

本プログラムは、上記内容について実施した、その成果を検証し作成したものです。多くの方々にご覧いただき、忌憚のないご意見、ご助言を賜れば幸いです。今後更に、これまでの成果を発展させるとともに、課題解決の検証を進め、障がい者スポーツの普及促進を図っていきたいと考えております。

最後になりますが、本事業の実施に当たり、御指導、御協力を頂いた、関係機関の方々や学校等の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

平成31年3月



## 平成30年度障がい者スポーツ推進プログラム（目次）

### I 地域の課題に対応した障がい者スポーツの実施環境の整備事業

1	事業の目的	1
2	実施事業の概要	1
3	事業効果	1
4	まとめと今後の課題	2

### II 実行委員会

1	会議の目的	3
2	検討事項	3
3	委員名簿	4
4	成果及び評価	4

### III 実施事業

#### 1 特別支援学校における継続的なスポーツ参加促進モデル事業

(1)	はじめに	6
(2)	事業の目的	6
(3)	事業の概要	6
(4)	成果及び評価	7
(5)	おわりに	23
	スポーツ大会参加についてのアンケート	24

#### 2 スポーツ普及促進事業・特別支援学校での選手育成事業

(1)	スポーツ普及促進事業	25
(2)	特別支援学校での選手育成事業	32

#### 3 共創共楽スポーツ推進事業

(1)	事業の目的	50
(2)	事業の概要	50
(3)	取組内容	50
(4)	実施の効果とあい路	54
(5)	おわりに	54
	障がい者スポーツセミナー参加者アンケート結果	55

#### 4 持久水泳普及事業（ふれあいスイミング・持久水泳認定会）

(1)	事業の目的	58
(2)	事業の概要	58
(3)	事業の内容	59
(4)	成果及び評価	69
(5)	おわりに	69



# I 障がい者スポーツ推進 プロジェクト



# I 障がい者スポーツ推進プロジェクト

## 1 事業の目的

地域において継続的な障がい者スポーツの実施促進を進めるに当たっては、障がい者スポーツへの「参加機会の拡大」やそれに携わる「人材の育成」、さらには、「地域住民との交流」も含め、障がい者スポーツが「楽しいことを実感できる環境づくり」が重要である。

本県においては、平成27年度より、「地域における障害者スポーツ普及促進事業」に取り組み、障がい福祉部門、スポーツ振興部門、教育部門といった行政部局に加え、県内スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が連携し、障がい者スポーツの普及促進に係る全県的な実行委員会を組織し、関係者間の「顔の見えるネットワーク体制づくり」を進めてきたところである。

これまでの成果を踏まえ、多角的な視点からの検討や、各団体が持つノウハウを活用しながら、生涯に亘るスポーツ活動の環境整備を目指し、新たな事業の展開と深化を図ることとした。

具体的には、「地域における障害者スポーツ実施環境整備のモデル構築」として、障がい者スポーツの普及促進を図るにあたっての課題に対応し、スポーツ活動の習慣化につなげるとともに、これまでの検証結果を生かした新たな展開を図りつつ、障がい者の視点に立ったモデル事業、障がい者スポーツの振興、さらには障がい者の自立と社会参加を促進していくことを目的とした。

## 2 実施事業の概要

(1)「徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」の設置

(2) 事業内容

障がい者スポーツの「参加機会の増加」、「裾野の拡大」、「交流の活発化」を目指し、従来の「障がい福祉」からのアプローチのほか、スポーツ部局との連携やスポーツの持つ情報発信力と交流機能の活用といった視点から、以下の事業を実施した。

- ①特別支援学校における継続的なスポーツ参加促進モデル事業
- ②スポーツ普及促進事業・特別支援学校での選手育成事業
- ③共創共楽スポーツ推進事業
- ④ふれあいスイミング及び持久水泳認定会

## 3 事業効果

普及促進事業を通して構築された連携体制やノウハウを生かしながら、障がい者スポーツ施策を一体的に進めることができつつあり、身近な地域でスポーツを行う機会の提供、スポーツを通じた障がい者の健康増進、加えて、障がいのある人とない人のとの交流が深まり、障がい者スポーツへの理解が一層促進されるよう、共生社会の実現に向けて確実に歩みを進めているところである。

#### 4 まとめと今後の課題

各事業において、継続的な障がい者スポーツの実施機会の提供を行うことで、学校や地域の総合型スポーツクラブ等において、障がい者スポーツの取り組みが定着してきている。また、事業への参加者からは、他のスポーツイベントや大会への参加希望の声が多く聞かれ、障がいのある方々の社会参加へのモチベーション向上に繋がるとともに、地域間交流も生まれ、障がいへの理解の促進にも寄与している。

一方、身近な地域で継続的にスポーツ活動に取り組める環境づくりのためには、地域と学校の連携体制の構築を促進するとともに、イベント主催者においても、受け入れ態勢をより充実させる必要がある。また、情報の集約・発信の仕方についても工夫が求められる。

事業実施により抽出されたこれらの課題の共有し、それらの解決と新たな展開に向けて、障がい者スポーツの一層の普及促進を行っていききたい。

## Ⅱ 実行委員会



## Ⅱ 実行委員会

### 1 会議の目的

平成27年度に設置した「徳島県障がい者スポーツ普及促進事業実行委員会」に引き続き、「徳島県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」を設置し、障がい者スポーツの普及・啓発を行うとともに、障がい者が、積極的にスポーツに参画できるよう、その障がいの種類及び程度に応じたスポーツ活動への参加の機会を提供し、生涯にわたって、身近にスポーツに親しむことができる方策について検討する。

### 2 検討事項

- ・スポーツ関係者、障がい福祉関係者等が、各地域で連携、協働し、障がい者スポーツの普及啓発等方策を検討することができる体制の強化
- ・障がい者スポーツの普及啓発の方策等を検討し、事業の進行管理、事業成果の検証等を行い、障がい者スポーツ推進プログラムをまとめる。



### 連携・協働

※実行委員会の中では、全国障害者スポーツ大会の結果も紹介



### 3 委員名簿

区分	所属・職名	氏名	備考
学識 経験者	徳島文理大学教授	岩城 由幸	委員長
	徳島大学大学院教授	佐藤 充宏	
障がい 者当事 者団体	徳島県身体障害者連合会業務執行理事兼事務局長	塩見 一義	
	徳島県手をつなぐ育成会理事兼事務局長	福田 清	
スポー ツ関係 団体	徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長	井澤 秀樹	
	徳島県スポーツ振興財団専務理事兼事務局長	並木 俊明	
	徳島県障がい者スポーツ協会次長	岡本 洋明	副委員長
行政職	徳島県県民環境部県民スポーツ課長	松本 光裕	
	徳島県保健福祉部障がい福祉課長	谷口 哲也	
	徳島県教育委員会特別支援教育課長	榊 浩一	
	徳島県教育委員会体育学校安全課長	林 日出夫	

### 4 成果及び評価

#### (1) 開催実績等

第1回 平成30年7月20日(金)

(議事)

- ・平成30年度障がい者スポーツ推進プロジェクトについて

第2回 平成30年11月16日(金)

(議事)

- ・第18回全国障害者スポーツ大会の結果報告について
- ・各事業の中間報告について

### 第3回 平成31年3月8日（金）

（議事）

- ・平成30年度成果報告書（案）について
- ・平成31年度実施計画（案）について

#### <委員からの意見>

- ・事業で行ったトレーニングやコーチングの内容を、各特別支援学校の財産として残し、活動を継続していくための、学校側の仕組み作りが重要である。
- ・地域の大会への参加にあたっては、福祉施設や作業所、特別支援学校等、団体での参加がほとんどであり、主に付き添いの方が、障がいのある方への配慮を行っている。障がいのある方の地域参加の方法について、学校卒業後のスポーツ活動の入り口を見えやすくするためにも、地域の総合型スポーツクラブとの連携が求められる。
- ・例えば、特別支援学校の放課後活動等の中に、地域の総合型スポーツクラブが入っていけるような受け皿を作ってもらい、そこに卒業生もOBとして参加できるようにすれば、地域と学校とのネットワークの構築が進むのではないか。  
また、特別支援学校同士の試合だけでなく、そこに地域の総合型スポーツクラブも参加できるようにして、競技大会と交流を併せて行うと、より有機的に学校と地域との結びつきが生まれるのではないか。

#### （2）評価

当該事業の実施にあたり、実行委員会を立ち上げたことで、関係者同士がネットワークを構築できており、障がい者スポーツへの取組みが、非常に円滑に推進された。

また、各事業実施主体が事業の情報を共有することによって、連携事業を開催したり、障がいのある人もない人も一緒になってスポーツを楽しむ機会の創出に繋げる等の展開が見られた。



### Ⅲ 実施事業

## Ⅲ－１ 特別支援学校における継続的なスポーツ参加促進モデル事業

徳島県教育委員会特別支援教育課

### 1 はじめに

知的障がいのある人の余暇活動の重要性が指摘され、その中でもスポーツ活動は彼らの QOL（生活の質）を高めるといわれている。障がいのある児童生徒が早い時期に、スポーツを「知る」ことは重要であり、生徒の卒業後の余暇活動の充実につながる学齢期のスポーツ活動の取組が求められている。

本県では、「とくしまマラソン」や「徳島駅伝」をはじめ、県内各地で地域に根ざしたマラソン大会が開催されている現状を踏まえ、県内の多くの特別支援学校では「体づくり」としてマラソンが実践されていることから、障がいのある児童生徒が地域において気軽に・楽しく・目標をもって楽しむことのできるスポーツとして「マラソン」を使った取組を行う。また、卒業後も地域との交流を深めながらスポーツを続けられるよう、地域のマラソン大会への参加をめざして実践を行う。

### 2 事業の目的

- (1) 関係機関と連携し、特別支援学校での体育の授業や放課後の時間等に取り組むスポーツ活動に外部の専門家を派遣することにより、障がいのある子どもたちが、スポーツの競い合う楽しさや達成感の体得、健康な体づくり、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できる資質や能力の基盤等を育てるとともに、障がい者スポーツに関する教員の指導力の向上を図る。
- (2) 障がいのある子どもたちが地域のスポーツ大会や活動に参加するための条件整備が十分ではない現状を踏まえ、教育機関とスポーツ関係機関との連携により、効果的な条件整備の在り方の検討を行い、障がいのある子どもたちが地域におけるスポーツ活動に積極的に参加するためのモデルを構築する。

### 3 事業の概要

#### ① 特別支援学校でのスポーツスキルアップ

##### (1) 実施内容

県内の多くの特別支援学校では「体づくり」としてマラソンが実践されていることから、障がいのある児童生徒が地域において楽しむことのできるスポーツとして「マラソン」を使った取組を行う。

これまで、特別支援学校では、指導者の確保が課題であったが、障がい者スポーツ協会や徳島県トレーナー協会等の関係機関のネットワークを用いることで、学校における指導者確保の円滑化を図ることにより、専門的な指導による児童生徒のスポーツ競技力の向上や教員の指導力の向上につなげる。

##### (2) 実施計画

- ① **場所**：徳島県立板野支援学校、徳島県立国府支援学校、徳島県立阿南支援学校、徳島県立池田支援学校、徳島県立みなと高等学園
- ② **対象者**：特別支援学校に通う児童生徒
- ③ **実施回数**：指導者派遣を各校年間4回行う

#### ② 障がいのある人がスポーツに参加できる条件整備の検討

##### (1) 実施内容

障がいのある児童生徒が、地域のスポーツ大会等に参加するためには、いつ、どこで、どのよう

なスポーツ大会や活動が行われているかの情報が、参加希望者に円滑に伝わる必要があることから、障がい者スポーツ協会等と連携し、特別支援学校や特別支援学級等への効果的な情報提供の在り方を検証する。

また、障がいのある児童生徒が参加している地域のスポーツ大会において、主催者や参加者等へのヒアリング等を行い、参加を容易にするための配慮の在り方など、障がいのある児童生徒の地域におけるスポーツ大会への参加促進に向けた課題検証等を行う。

## (2) 実施計画

9月 徳島県障がい者スポーツ協会と効果的な情報提供のあり方とスポーツ大会参加者へのアンケート作成に関する協議

11月～ スポーツ大会における事務局への聞き取りと参加者へのアンケート実施

## 4 成果及び評価

### 1 特別支援学校でのスポーツスキルアップ

県内特別支援学校5校で取り組んだスポーツスキルアップについての各学校からの報告は以下のとおりである。

#### (1) 板野支援学校

##### ① 学校のプロフィール

板野支援学校は徳島県の北東部に位置し、四国三郎吉野川流域の田園地帯に昭和54年4月1日に県立養護学校の板野分校として誕生した。当時は肢体不自由と病弱の障がいを持った児童生徒が通う学校であり、児童生徒数も昭和59年度で小学部35名、中学部31名、高等部37名、計103名を数える程であった。

平成8年4月に板野分校は廃止され、本校(県立養護学校:松茂町)と統合される形で現在の場所に板野養護学校と名前を変更し新しくスタートしている。平成19年4月からは知的障がいの教育部門も付加され、知的障がい・肢体不自由・病弱の障がいを持つ児童生徒を受け入れる体制が整った。平成22年には板野支援学校とさらに校名変更されるが、その頃から児童生徒の数は急激に増加することとなり、現在では小学部56名、中学部48名、高等部97名、計201名が在籍している。

##### ② 取組の概要

実施時期	実施内容(活動内容)	対象
平成31年 1月24日(木) 9:15～10:30	<p>スポーツスキルアップ講座 I</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤 達也 氏</li> <li>・場所：板野支援学校体育館</li> <li>・内容</li> </ul> <p>①開会行事・講師紹介</p> <p>②準備体操・ストレッチ 参加生徒一人ひとりが、講師の指示により関節の可動域を広げたり、全身をストレッチする運動を行い、少し汗ばむ程度にウォームアップした。</p> <p>③トレーニング I (平衡感覚・体幹) 目を閉じてバランスをとったり、片足立ちでバランスをとるなど平衡感覚が確認できる運動をした。その後、体幹トレーニングを行うことで、生徒それぞれが身体の状態を知ることができた。</p>	<p>参加生徒 【高等部】 36名 【中学部】 5名</p>



〈体幹トレーニング〉

④トレーニングⅡ(ムービング)…グループに分かれて  
生徒は8班に分かれ、講師から指示された運動を各班一人ずつ  
がリレー形式で行った。簡単な運動から始め、少しずつ難度の高  
い動きを加えながら強度も上げていくようにした。

できない生徒は無理をせず、できる範囲の運動をすることとし  
た。(前段階の運動に取り組むなど)

生徒が飽きないように、身体だけを使って行う運動から、コーン  
やマイクロハードル、フープなどを使って行う運動へ移行してい  
くなど、楽しみながらできる運動を多く取り入れるようにした。  
活動中は生徒の笑顔が絶えることがなかった。

最後は4つの班に分かれ、競争する形での運動が行われた。ボ  
ールを送る競争や二人でゲートをつくってくぐり抜ける競争な  
ど、最後まで楽しく身体を動かすことができた。



〈ボール送り〉



〈ゲートくぐり〉

⑤まとめ

スムーズに展開することができるよう、本校職員が講師のサポ  
ート役となり、理解が進んでいない生徒にアドバイスするように  
した。

会場・用具・参加生徒の状況について事前打合せすることで、  
当日の雰囲気や生徒の能力に合わせた運動を提示することができ  
た。生徒は終始笑顔で運動を行うことができ、最後はうれしそう  
に「来週もお願いします!」と大きな声で挨拶することができた。

平成31年  
1月31日(木)  
9:15~10:30

スポーツスキルアップ講座Ⅱ  
・講師：CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤 達也 氏  
・場所：板野支援学校体育館  
・活動内容  
①準備体操・ストレッチ  
先週同様に関節の可動域を広げる運動や全身をストレッチする  
運動を行いウォームアップした。  
②トレーニングⅠ(ランニングに動きを加えて)  
生徒は8班に分かれて、講師から指示された運動を各班一人ず  
つがリレー形式で行った。15m程度のダッシュの途中でジャン  
プや方向転換を行うようにした。  
③トレーニングⅡ(ゲーム形式)…じゃんけん罰ゲーム  
1対1でじゃんけんし、負けた方がダッシュするなど、生徒が  
楽しんでできるゲーム形式の運動を行った。  
④トレーニングⅡ(ゲーム形式)…グループに分かれて  
2チームに分かれて、中央におかれた運動用具を奪い合うゲー  
ムなどを行った。楽しく活動しながらも、知らず知らずのうちに  
身体を動かし、運動量も豊富な活動となった。

参加生徒  
【高等部】  
35名  
【中学部】  
5名

#### ⑤まとめ

今回は、走ることを基本とした運動を生徒の実態に即して行った。生徒の能力や状況をその場で判断しながら、適度な強度の運動を行うことができた。楽しさを重視し、1対1の対戦形式やゲーム形式を取り入れることで、単調な運動も飽きることなく最後まで取り組むことができた。



〈用具争奪戦〉



〈〇名グループづくり〉

### ③ 活動の成果

専門的な知識と技術を持った外部講師が来校し直接指導を受ける機会を持てたことは、本校生徒・職員にとってとても有意義な活動であった。普段とは少し違った運動に取り組むことで、一人ひとりが自身のバランス感覚や関節の可動域を再確認することができた。さらに、生徒が主体的に取り組むための運動を数多く体験できたことは、生徒教師共に今後の体育的活動を展開していく上での参考となった。

ウォームアップの段階から、生徒の能力、全体の雰囲気を感じ取りながら各種のドリルの提供により、生徒全員が最後まで飽きることなく運動を楽しむことができた。通常の体育的活動では、教師が工夫を凝らしよりよい指導を目指しているものの、マンネリ化した内容からは抜け出せない状況が多かった。その中で、本事業の開催できたことは生徒だけでなく教師への刺激となり、大きな意味があったと感じている。

### ④ 今後の課題

スポーツのスキルアップや地域の活動に積極的に参加することは、本校生徒にとって簡単なことではなく、継続的に活動が展開されなければその効果を期待することはできない。年間を通じて定期的に講座が開設され、生徒がスポーツに触れる機会を増やしていくことができればスキルアップにつながることは当然である。同時に、運動することが好きになる生徒が増加し、積極的にスポーツに取り組もうとする意識の向上にもつながっていくと予想される。

学校からは、本事業が継続的に行われ年度内の講座数をさらに増加してほしいとの要望がでている。専門家のスキルを学校教員が理解し、子どもたちに指導できるようなしくみづくりが重要となる。

## (2) 国府支援学校

### ① 学校のプロフィール

国府支援学校は、徳島市西部の閑静な穀倉地帯に位置する知的障がいのある児童生徒を対象とする特別支援学校である。児童生徒の障がいの状態は多様であるが、自閉症を伴う知的障がいの児童生徒が学校全体の約半数を占めている。

学校教育目標を「児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行うことにより、その可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会参加し、主体的・創造的生活を営むことのできる人間を育成する。」とし、個々の児童生徒の実態や興味関心に応じた指導を行っている。

平成30年度は、小学部82名、中学部82名、高等部120名、計284名が在籍している。自宅からの通学生、寄宿舎生、また、家庭の事情により隣接する障がい児施設や他の児童養護施設に入所し通学す

る児童生徒もいる。

今回の対象生徒は、中学部については地域のマラソン大会に参加する生徒、高等部については体力作りの授業でロード班に所属している生徒とした。

② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
平成30年 11月2日(金) 15:00～16:00	<p>1 外部講師によるランニング指導（中学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤 達也 氏</li> <li>・場所：国府支援学校運動場</li> <li>・内容：11月18日に開催される「神山温泉すだちマラソン」に参加する生徒を対象に楽しんで取り組むことができる練習について指導助言を受けた。準備体操として、ストレッチやウォーミングアップを行った後、芋虫歩きやランジ歩行、肘膝タッチ等の基本練習に取り組んだ。また、マーカーコーンを頭に載せて歩行したり、3人で繋がって（前の人の肩を持つ）進むことで、相手に合わせて動く活動を行った。どれも生徒たちが楽しみながら取り組むことができる内容だった。最後にコーンをバトンにしてリレーを行った。バランスが取りにくい状況を作って走る練習をすることも体の調整力をつける上で大切であることの助言があった。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	中学部マラソン 大会参加者 15名
平成30年 11月18日(日)	<p>神山温泉すだちマラソン大会当日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所：神山町民グラウンド</li> <li>・内容：参加者15名全員完走することができた。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	中学部マラソン 大会参加者 15名
平成30年 11月28日(水) 9:30～10:30	<p>2 外部講師によるランニング指導（高等部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤 達也 氏</li> <li>・場所：国府支援学校 体育館</li> <li>・内容：高等部ロード班に所属している生徒を対象に、バランスの良い走法で走るための指導助言を受けた。ストレッチやバランストレーニング、四股踏みなどを行った後、体幹トレーニングを行った。体幹トレーニングでは、腕立て伏せの姿勢を保ちながらのジャンケンや前進後退、同じ姿勢で手と足を別々に動かしての前進後退など、負荷のかかる動きであったが、加藤講師の声かけや師範によって、生徒が楽しく取り組むことができた。</li> </ul>	高等部ロード班 32名



平成30年  
11月29日(木)  
9:30~10:30

### 3 外部講師によるランニング指導（高等部）

- ・講師：CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤 達也 氏
- ・場所：国府支援学校体育館

・内容：前回と同じ生徒を対象に指導助言を受けた。ストレッチやバランストレーニングを行った後、リズムトレーニングを行った。リズムトレーニングでは、通常のスキップでしっかり手を振ることや高く足を上げることを確認し、その後に7種類のスキップを行った。

- ①高く跳ぶスキップ
- ②前後で手をたたきながらスキップ
- ③小さく早く足を使うスキップ
- ④体を正面に向けて横に移動するスキップ
- ⑤後ろ向きでスキップ
- ⑥6人で手をつないでスキップ
- ⑦大股で速いスキップ



高等部ロード班  
34名

平成31年  
2月6日(水)  
15:00~16:00

### 4 外部講師によるランニング指導（中学部）

- ・講師：CONDITIONING STUDIO ACHIEVE 加藤 達也 氏
- ・場所：国府支援学校体育館

・内容：気温の低い時期であるので、運動量が多く体が温まる活動をいくつか紹介していただいた。走りに繋がる基本的な動きの他、5~6人ずつのグループごとにボールを頭上で送りながら進んだり、二人でトンネルを作り、その中をくぐりながら進んだりする活動に取り組んだ。また、2チームに分かれ、体育館中央に置かれたマーカーコーンを争奪するゲームでは、生徒たちは一生懸命走って、マーカーコーンを自陣地に運んだ。このように楽しく取り組むことができる活動により、知らず知らずのうちに運動量が増え、体力や持久力の向上に繋がることを学ぶことができた。

中学部マラソン  
大会参加者他  
17名

		
<p>平成31年 2月24日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉野川市リバーサイド・ハーフマラソン大会当日</li> <li>・場所：吉野川市鴨島運動場</li> <li>・内容：3 kmの部に中学部から12名が出場</li> <li>・全員完走し、9名が前回の大会より記録を更新することができた。</li> </ul> 	

### ③ 活動の成果

#### a 中学部

「楽しく取り組むことができる活動」を取り入れることで、生徒の活動意欲が向上し、「走る」だけでなく、しゃがんだり這ったり、ジャンプしたりと様々な動きに楽しく取り組み、知らず知らずのうちに運動量が増え、体力の向上に繋げることができた。また、バランス力や調整力等トータル的にトレーニングすることができ、3 km走をする時にペース配分をすることや、安定した走りを意識できるようになった生徒もいる。発達段階に応じた内容であり、実践に生かすことができた。1回目の神山温泉すだちマラソンと2回目の吉野川市リバーサイド・ハーフマラソン大会のタイムを比較すると、2回目にタイムを縮めることができた生徒は12名中9名であった。継続して練習に取り組んだ成果であると考えられる。

#### b 高等部

バランスの良い走法を身につけるために、体幹トレーニングやリズムトレーニングを中心に指導助言を受けた。簡単な動きや、やってみて楽しめる動きから始まり、少しずつ強度の高い運動へ進んだことで、生徒は前向きに取り組むことができた。体の使い方や、意識する部分について、解説を行いながら授業を進めてくれたので、生徒にとってはわかりやすい内容であった。また、道具をあまり使わずにできる運動で、楽しく手軽に行えることが、今後の実践につながりやすいと感じた。今回のランニング指導で、体のバランスを意識して、リズム良く体を動かすことが、バランスの良い走法につながるということを学んだ。

### ④ 今後の課題

#### a 中学部

今回、地域のマラソン大会に参加する生徒を対象に外部講師から指導助言を受けた。走ることが苦手な生徒にも走るコツや楽しさを伝えるために、普段の授業でも実践できる環境を作り、取り組むことが必要である。また、今回参加した地域のマラソン大会では、自己ベストを更新するために真剣に走り、普段の練習の成果を発揮できた生徒が多かったが、タイムは気になるが普段と違う環境の中で、自分の力を発揮することが難しい生徒もいた。大会に参加するための心構えや体調の整え方について

も、指導していくことが今後の課題である。

#### b 高等部

本校高等部では、週に3回体力作りの授業を行っている。高等部1年生から3年生を縦割りで2班に分け、グラウンドを30分間走るグラウンド班と、学校周辺のコースを3km走るロード班で授業が展開されている。今回の対象はロード班であったが、グラウンド班も含めて、高等部全体でバランスの良い走法について、日々の体力作りやスポーツの授業で継続して指導できるようにしていきたい。外部講師より指導助言された内容について、生徒がポイントを押しさえられるように、繰り返し実践することも重要である。また、生徒の発達段階によって指導方法が異なるため、それぞれの生徒に合った指導方法を考えていくことも必要である。

### (3) 阿南支援学校

#### ① 学校のプロフィール

阿南支援学校は、徳島県南の阿南市上大野町と吉井町との境にある阿南市内を一望できる城山の腹に位置し、野鳥の鳴き声が聞こえてくる豊かな自然に囲まれた環境の中にあり、近くには「阿南西部公園」も設置されている。JR 阿南駅から約10km 離れ、路線バスの便数も少なく、学校下の長い坂道を上って自転車で通学する生徒もいるが、児童生徒が一人で通学するには不便な場所にある。

本校は知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、平成30年度は小学部36名、中学部36名、高等部63名の計135名が在籍している。小・中学部については、地元の学校への就学志向が見られるが、障がい児への専門的な教育を希望し本校へ入学する者も多い。高等部については、普通科と生活科学科と産業工芸科を設置し、将来の社会（就業）自立・参加への期待も大きく、広い地域からの入学希望者がある。

児童生徒の運動課題として、基礎的な身体の動きを身につけること、体力づくり（筋力・持久力の向上、体幹強化、身体のバランス力を高める等）、肥満防止とたくさんあげることができる。日頃から運動する習慣をつけ、正確な身体の動きを身につけていろいろな力の向上へつなげていきたいと考えて取り組んだ。

#### ② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
平成30年 11月5日(月) 9:30～10:30	・講師：ピラティス®インストラクター 吉成 侑弥 氏 ・場所：阿南支援学校運動場 ・内容 9:30 休み時間を利用して遊びの共有 9:40 朝の会の中で自己紹介 9:50 運動場において朝の体育の時間 ・ジョギング ・準備運動 ・腕の振りを意識した歩行 ・足の上がり意識した移動（2種類） ・両足跳びでの移動 ・ラダーを使った運動（3種類） ・ジョギング ・休憩 ・ポイントコーンを使った運動（2種類） ・整理運動 10:30 終了	小学部 8くみ、9くみ (小学5.6年生 4名)



準備運動



ジョギング



ミニコーンを使った運動

平成30年  
12月12日(水)  
10:40~11:20

- ・講師：ピラティスアドバイザー 吉成 侑弥 氏
- ・場所：阿南支援学校体育館
- ・内容  
体育館にて  
10:40 講師紹介  
10:42 体育の授業  
・準備運動（ストレッチ）

中学部  
体育 AB グループ19名  
（男子9名・女子10名）



- ・身体の使い方を意識した動き（手足の協応）



- ・ラダーを使った動き



- ・腕の振りを意識した動き  
（マットの上を腕を振って歩く）



・足の上がりを意識した動き  
(ミニハードル使用)

・コーンとポールを使った運動



(またぐ)



(くぐる)

・整理運動

11:20 終了

平成31年  
1月18日(金)  
10:40~11:20

・講師：ピラティスアドバイザー 吉成 侑弥 氏  
・場所：阿南支援学校運動場  
・内容

10:40 体育の授業  
・準備運動 (ストレッチ)  
・ランニング  
・ラダーを使った運動



(足の運び)



(両足跳び・片足跳び)

・身体の動かし方 (手足の出し方・身体のひねり)  
・コーンを使った運動



(走る)



(スキップ)



(2つの円を8の字  
でリレー)

・校舎外周2周 (約600m) タイムトライアル  
・整理運動



11:20 終了

平成31年  
1月23日(水)

・講師：ピラティスアドバイザー 吉成 侑弥 氏  
・場所：阿南支援学校運動場

中学部  
体育 AB グループ

10:40~11:20	<p>・内容</p> <p>10:40 体育の授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランニング</li> <li>・準備運動（ストレッチ）</li> <li>・ラダーとミニコーンを使った運動（両足跳び・片足跳びなど）</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・両足立ち幅跳び（3回ジャンプ）</li> <li>・走り跳び（8m）</li> <li>・駅伝（4チームに分かれて実践）</li> </ul>   <p>・整理運動</p> <p>11:20 終了</p>	<p>プ18名 （男子9名・ 女子9名）</p>
-------------	--	----------------------------------

### ③ 活動の成果

#### 【小学部】

トレーナーには、学級の雰囲気慣れてもらうために朝の会の時間から参加をお願いした。児童たちは初めて会う先生に大きく緊張することなく自分から話しかける場面も見られた。

運動場の活動では、ランニングフォームの確認、準備運動、ラダーやミニコーンを手がかりとした運動等を行った。腕の振りや足上げを意識した指導や手と足の協応動作が難しい児童への指導中、終始優しい言葉かけや表情の対応だった。

子どもたちも普段行わない体の動かし方に苦戦しつつも、できた時にはどの子どもとてもよい表情を見せていた。新たな達成感を味わえた様で子どもたちの経験を拓ける良い機会となり、有意義な時間であった。

#### 【中学部】

中学部では、日常生活の指導の中で個々の実態に合わせて周回数を設定し、校舎の周り（外周）を毎朝走っている。朝のランニングや体育の授業で生徒の走り方を見て、腕を振らずに走っている、すり足で走る、走る姿勢が悪い・・・など走り方を改善すべき生徒が多いと感じた。また体幹が弱くバランスが悪い生徒が多いことも分かった。そこでスポーツスキルアップ事業で専門的な指導を受け、課題克服に繋がればと考えた。

生徒たちはトレーナーの吉成先生と会ったすぐは緊張していたようだったが、徐々に慣れてくると自分から話しかける生徒もいて、笑い声が出る楽しい雰囲気の中で授業が行われていった。中学部の3回の授業では、ストレッチを中心とした準備運動、ラダーやミニコーンを使った足の運びや足首強化、体重移動（バランス感覚）、ランニングフォームの確認などを行い、身体の動かし方が苦手な生徒が多かったため、腕の振りや足上げ、身体のひねりを意識した指導を多く取り入れてくださった。活動の中で、指示された身体の部位が思うように動かすことができず、苦戦している生徒が多数いた。ボディイメージが持ちにくいことから、動かす部位を具体的に指示したり（肩を回す→肩の付け根から大きく回す等）、部位に触れて力の加減を伝えたりすることで、指示された身体の部位を動かすことができるようになってきた生徒が増えた。

また中学部では、今年初めて駅伝大会を開催することになっていたため、トレーナーからタイムトライアルやミニ駅伝の活動の設定があり、生徒たちは大会を意識して取り組んでいたように思う。1月28日（月）に全員が参加した駅伝大会は、トレーナーの吉成先生に教わったことや日頃からのランニ

ングの積み重ねから、生徒一人一人が持っている力を十分に発揮し、頑張っ走ったという充実感や達成感を実感できたと思っている。

#### ④ 今後の課題

##### 【小学部】

今回の活動においては、運動に興味のある児童や比較的教員からの言葉の指示が理解できる児童を選抜して少人数で参加した。今後、発達段階や運動能力に差異のある集団での実施を考える時には、授業における個々の到達目標や支援の方法を今回よりも綿密に話し合っておく必要がある。場合によっては、ホワイトボードの準備等、活動の順番や方法が説明できる環境の設定や運動能力別のグループ分けの設定も必要であると考えられる。

##### 【中学部】

中学部での保健体育の授業では、運動能力や身体機能を考慮して4グループに分かれて実施しているが、今回は比較的運動能力や体力等が高い2グループの生徒が参加した。今回の事業により外部講師から指導や助言を受けたことを、参加できなかった生徒も含めて日頃の体力づくりでのランニングや保健体育の授業で積極的に取り入れて指導していくことで、中学部全体の持久力や筋力の保持増進と体力の向上に繋がっていければ、と考えている。今年度初めて中学部の校内駅伝大会を実施したので、毎年恒例の行事に繋がっていきたい。またここ何年か、本校近隣の阿南市加茂町で行われる加茂谷駅伝大会に高等部の生徒が参加しているが、将来高等部へ進学した生徒や中学部からも地域で開催されるマラソン大会や駅伝大会に出場し、スポーツを通して同年代の子どもや地域との交流を図ることを目指していきたい。

### (4) 池田支援学校

#### ① 学校のプロフィール

池田支援学校は、知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校である。県西の山間部に立地し、学校周辺には多くの福祉施設があり、地域一帯が『箆蔵福祉村』と呼ばれている。平成30年度は小学部28名、中学部19名、高等部40名、計87名が在籍している。児童生徒の約4割が家庭から離れて隣接する福祉型障がい児入所施設（池田学園）から通学している。児童生徒の障がいの重度・重複、多様化から、多くの児童生徒は、保護者の送迎やスクールバスを利用しており、自力通学している者は数名である。

児童生徒の運動課題は、体力づくり（筋力、持久力のアップ、体脂肪の減少、病気に負けない体づくり）であり、運動する習慣をつけ、余暇活動や地域スポーツへの参加につなげていくことである。

そこで、今年度はランニングを中心とした体力づくりを目標に、授業や行事において継続した取り組みを行った。

#### ② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
平成30年 10月16日(火)	1 外部講師によるランニング指導(1回目) ・講師：三好ランニングクラブ 林 茂樹 氏 ・場所：池田支援学校運動場 ・内容：初めに林先生より、ランニングについて必要な心構えや今日行うメニューの話聞いた。ウォーミングアップとして体操、グラウンド内のトラックを各自の体調に合わせてじっくり3周走っ	高等部27名

	<p>た。その後、メインである10分間走を行ってからトラックを1周全力で走った。クールダウンとして体操を行ってから終了となった。各自が自分のペース配分を心がけながら走ることができ、周りの人と競い合う場面も見られ、しっかりとした活動が行えていた。</p>	
<p>平成30年 11月20日(火)</p>	<p>2 外部講師によるランニング指導(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：三好ランニングクラブ 林 茂樹 氏</li> <li>・場所：池田支援学校運動場</li> <li>・内容：林先生から「力を出し切ることを目標とする」と指導を受けた。体操などのウォーミングアップの後、6分間走を2本行った。2本とも各自がペース配分を心がけながら、最後の1秒まで全力を出し切っていた。</li> </ul>	<p>高等部27名</p> 
<p>平成30年 12月22日(土)</p>	<p>3 みよしロードレース大会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場：ぶぶるパークみかも(東みよし町)</li> <li>・内容：今年は学校隣接の入所施設の行事と重なり参加数は5名と少なかったが、気温が低いコンディションにもかかわらず、精一杯ゴールを目指して粘り強い走りが見られた。</li> </ul>	<p>高等部1名 中学部2名 小学部2名</p> 

### ③ 活動の成果

高等部では、ランニングは年間を通して授業の中で週3回行っており、各自が自分の体力に合わせて周回数を定め、クリアしていくことを目標としている。小・中学部では、様々な動きを行うサーキットトレーニングや冬場にはランニングを授業の中で取り組んでいる。ランニング指導で助言を受けてから、走ることに對する姿勢がより一層前向きになり、1人1人のモチベーションアップにつながっていた。冬季休業中に参加した「みよしロードレース大会」では、それぞれが最後まで粘り強い走りを見せ完走することができ、充実感や達成感を味わうことができていた。

また、本校では、今年度は小学部が1月、中学部が12月、高等部が10月末から12月の2ヶ月間を「体力作り月間」と位置づけ、体力の向上を図った。その締めくくりとして、高等部を中心に「リレーマラソン」を実施した。クラスごとにチームを作り、一丸となって生徒一人一人が日々の頑張りを発揮した。

### ④ 今後の課題

ランニングなどの運動を、毎日継続して取り組むことで持久力や筋力の保持増進と体力の向上に繋がり、地域の行事への参加に向けての意欲付けともなっている。そのため、児童生徒や教員に過度の負担にならないように学部全体で練習計画を立て、継続して取り組む必要がある。また、継続して取り組むためには、指導助言の内容や児童生徒の運動技能などの実態の引き継ぎを確実にできる校内体

制の充実が必要である。

さらに、本校は、公共交通機関の利用が困難な地域にあり、地域の行事に参加する場合もバス等を貸し切る以外に移動手段がない。児童生徒は、地域で開催されるマラソン大会に出場し、同年代の児童生徒と交流することを楽しみにしており、スポーツを通して地域との交流を図るためには、移動手段の確保が必要となる。

## (5) みなと高等学園

### ① 学校のプロフィール

本校は、高等学校段階の病弱又は知的障がいを伴う発達障がいの生徒を対象とした特別支援学校である。発達障がい者を対象とした学校は全国初であり、2012年4月に開校した。

現在、陸上競技部の部員数は6名である。本部には学校の中でも運動能力がトップクラスの生徒が毎年のように在籍しており、スポーツテストでも校内の上位を占めている。競技レベルの高い生徒は、高等学校の総合体育大会や新人大会に参加したものがいる。全国障害者スポーツ大会には、毎年部員が参加し、3年間で5つのメダルを獲得をすることができた。

### ② 取組の概要

実施時期	実施内容（活動内容）	対象
平成30年 11月27日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏</li> <li>・場所：みなと高等学園運動場</li> <li>・内容</li> <li>・ストレッチ</li> <li>・アライメントチェック（測定）</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードルドリル</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディスンボール投</li> <li>・体幹補強</li> <li>・動き作りのスプリントドリル</li> <li>・ミニハードル走</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウインドスプリント</li> <li>・ランニング</li> </ul>	部員6名
平成30年 12月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏</li> <li>・場所：みなと高等学園体育館</li> </ul>	部員6名

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容</li> <li>・ストレッチ</li> <li>・アライメントチェック（測定）</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・動き作り</li> <li>・シャトルラン</li> </ul>	
平成30年 12月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏</li> <li>・場所：みなと高等学園運動場</li> <li>・内容</li> <li>・ストレッチ</li> <li>・アライメントチェック（測定）</li> <li>・サーキットトレーニング</li> </ul> 	部員 6 名
平成30年 1月15日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：鍼灸マッサージ治療院 すえひろ堂 永井 明人 氏</li> <li>・場所：みなと高等学園運動場</li> <li>・内容</li> <li>・ストレッチ</li> <li>・アライメントチェック（測定）</li> <li>・サーキットトレーニング</li> </ul>	部員 6 名

### ③ 活動の成果

アライメントチェックで、個々の選手の身体的特徴や動きの癖が分かり、適切な対処方法について指導を受け実践する事で、怪我の予防につなげることができた。部員全員が扁平足であることが判明し、シューズのサイズやタイプの選び方を知り、改善することで記録が向上した。大きすぎるシューズを使用していた選手は、ジャストサイズのシューズに替えることにより、持久走の記録が大幅に向上することができた。

今回の事業のまとめとして地域の駅伝大会に参加したが、全体で3位の成績を収めることができた。競技力向上だけでなく、学校外の地域の大会に参加しているいろいろな方と関わる事で、スポーツをする喜びを感じ、部活動に対する意欲が高まった。

### ④ 今後の課題

現在、本部の顧問は日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者であり、今回の事業でも外部指導者とスムーズに連携をとりながら、指導することができた。今後、教員の異動などにより今の水準の指導を続けていくことが難しくなる可能性や、さらに選手もその実態やニーズに年々変化がみられる。

指導者側の変化と選手側の変化が大きく重なっても、多様なニーズに応じて柔軟に指導して、スポーツライフを構築できるようなよりよい活動を行うことができるかが課題である。

## 2 障がいのある人がスポーツに参加できる条件整備の検討

### (1) 大会の情報提供について

各種スポーツ大会については、徳島県障がい者スポーツ協会より、各特別支援学校や特別支援学級の設置校、また各市町村の福祉事務所や福祉施設等に送付されている。このため、学校や施設等に所属している方には、所属団体をとおして情報提供がなされている。

また、地域のスポーツ大会では、これまでの参加状況により、主催者から直接学校へ案内されている。そのほか、HP等により、広く情報提供されていることもある。

特別支援学校の教員からの聴き取りによると、特に高等部では、社会体育への移行ということも考慮して、大会の情報について学校から家庭へ周知が図られ、参加の検討に際しては、送迎を含め、家庭の協力をお願いしている現状がある。

### (2) 地域の大会への参加促進を図るための意見聴取について

本事業においては、地域のマラソンや駅伝大会の主催者と参加する児童生徒を対象に聴き取りやアンケートを実施した。地域のマラソンや駅伝大会の主催者として、主に市町村教育委員会や社会福祉協議会等を対象に、4つの大会で聴き取りを行った。

また、アンケートは、大会参加者である、トレーナー派遣によるランニング活動実施校3校の児童生徒とスポーツ大会（ソフトバレーボール）に参加している就労支援事業所の利用者を対象に実施した。

### ○主催者について

地域のマラソンや駅伝大会では、一般の大会のため、障がいのある人もない人も参加しており、年齢等に応じて1km、1.5km、3kmなどの設定がある等、だれもが気軽に参加できるような設定になっている。特別支援学校からの児童生徒の参加にあたり、学校から取りまとめて申し込みを受けている。

教員の引率があり、学校単位での参加ということが影響しているのか、当日の運営では、主催者からは特に配慮なしとしているケースが多い。

- ・伴走者可・・・2大会（マラソン大会、ロードレース大会）
- ・伴走者不可・・・1大会（駅伝のため、危険を伴うから）

案内表示について、大会会場では、受付や記録、トイレ等、参加者にとって必要な箇所について、わかりやすく表示されていることが多い。また、マラソンや駅伝のコースについては、地図により示されている。

以上のことから、障がいのある人はもとより、だれでも参加できるような条件はかなり整備されていることがわかった。

### ○マラソン大会等参加の児童生徒について

（アンケートの回答結果は24ページ）

- 1 学部 2 学年 中学部・高等部の生徒が多かったが、小学部からの参加者もあった。
- 3 「どうやってこのスポーツ大会を知りましたか」 全員が学校からの情報提供による。
- 4 「どのように参加申込をしましたか」 全員が学校からの参加申込をしている。
- 5 「どのようにして会場まで来ましたか」 家族や学校による送迎がほとんどである
- 6 「大会に関する各場所の理解」

受付・トイレ・スタート位置については、利用頻度が高いためか、児童生徒が把握できていることが多い。

更衣室・救護等について、大会ごとに設定の有無に違いがある。

必要に応じて、教員や友だち等に教えてもらって理解している場合もある。

○参加者（特別支援学校の児童生徒）の意見

- ・一生懸命走れたので良かったです。（13人）
- ・今回の駅伝に出て、とても達成感を感じました。（7人）
- ・とても楽しかったです。また、来年も参加したいです。（5人）
- ・しんどかったけど、楽しかった。（6人）
- ・けっこうきつかったです。（4人）
- ・他の学校の人と、どれだけ体力に差があるかがわかったのでよかったです。（2人）
- ・走ることはすごく大変で苦しかったです。しかし達成感を味わいました。（2人）
- ・自分のペースで走ることができたと思います。（2人）
- ・来年は選手で出たいです。（2人）
- ・私はバックアップメンバーでしたが、がんばった皆のすがたを見ると、とても良いと思いました。
- ・みんなでタスキをつないで、最後までゴールできてよかったです。楽しかったです。
- ・思った以上にタイムも速く、学校のオープン参加で出て、学校の区間賞をとりました。うれしかったです。
- ・応援が出来て良かったです。

○参加者（成人の方）の意見

- ・すごく楽しかったです。またスポーツ大会など参加したいです。
- ・いろいろな人とプレーできてよかったです。また機会があれば、参加してみたいです。
- ・チームメイトで出れたので楽しかった。

○保護者の意見

- ・また来年も参加したい。駐車場の詳細を要項に掲載してほしい。
- ・地域の中で子育てしている保護者として、大変うれしく思っている。
- ・地域密着型のスポーツイベントというのがとてもよい。
- ・休日返上で先生方からも指導・支援していただいて、大変感謝している。
- ・（卒業を迎えるにあたり）よい思い出になった。

○引率教員の意見

- ・特別支援学校の児童生徒に対する地域の方々の理解を深めることができる。
- ・大会だけでなく、年間をとおして、地域のお祭り等へのボランティア参加で交流がある。
- ・日頃より、地域とのつながりや交流をもつことで、子どもたちへの理解が深まり、地域での職場実習の受け入れやひいては就労につながっていく。

○主催者の意見

- ・少子高齢化の影響で、参加者が減っている中、特別支援学校の児童生徒の参加により一緒に走ることで、大会を盛り上げていけたら、との願いがある。

○参加促進に関する考察

①スポーツへの継続的参加

スポーツ大会の情報を知り、参加申込にいたるには、所属する特別支援学校やチームのサポートによるところが大きい。特別支援学校の児童生徒が、卒業後も継続的にスポーツに取り組み、大会参加をとおして地域と交流を図るためには、地域のスポーツクラブ等に参加してスポーツを継続することが、ひとつの大きな方策である。

また、マラソン大会等は、毎年同じくらいの時期に開催されることが多く、個人でも申込できるものもあるため、インターネット等で情報を得る経験を在学中から知っておくことも有効であると思われる。

②移動手段の確保

本県では、公共交通機関が発達しているとはいえ、家族の送迎や学校からの引率等による参加が

多い。県内各地で、それぞれの市町村の特色を活かし、地元に着して開催されるマラソン大会等において、JRや路線バス等の公共交通機関の利用は厳しいケースが考えられる。参加の促進を図るためには移動手段の確保が欠かせないため、有効な方策を考えることが必要である。

主催者より、最寄りの駅等から会場までの送迎といったサービスの提供が可能であれば、今後の大会参加促進に役立つと考えられる。

### ③視覚的支援

大会参加にあたり、受付やトイレ等、会場内の配置について、配置図の準備や個々の箇所の表示等、視覚的にわかりやすく示すことで、障がいのある人はもとより、初めての参加者など、多くの人にとって理解しやすくなる。

## 5 おわりに

本研究では、多くの特別支援学校で取り入れられている「マラソン」の活動に、児童生徒のスキルアップと教職員の指導力向上をねらいとしてトレーナー派遣を行った。5校の取組において、各校の実態に応じた充実した活動が展開され、児童生徒はさまざまなアプローチによるトレーニングで楽しみながら技能を向上させることができた。

また、地域のマラソン大会参加をとおして、走りきる達成感を感じるとともに、地域との交流を深め、スポーツの楽しさを味わうことができた。さらに、また大会に参加したい、とさらなるスポーツへの意欲を育てることとなった。

地域のスポーツ大会主催者からも、特別支援学校からの参加を歓迎する声が聞かれ、ともにスポーツを楽しむとともに、地域の方々の障がいのある児童生徒への理解・啓発にもつながった。

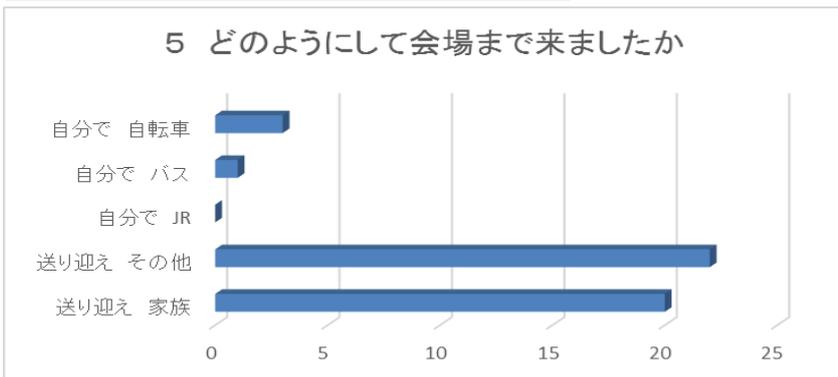
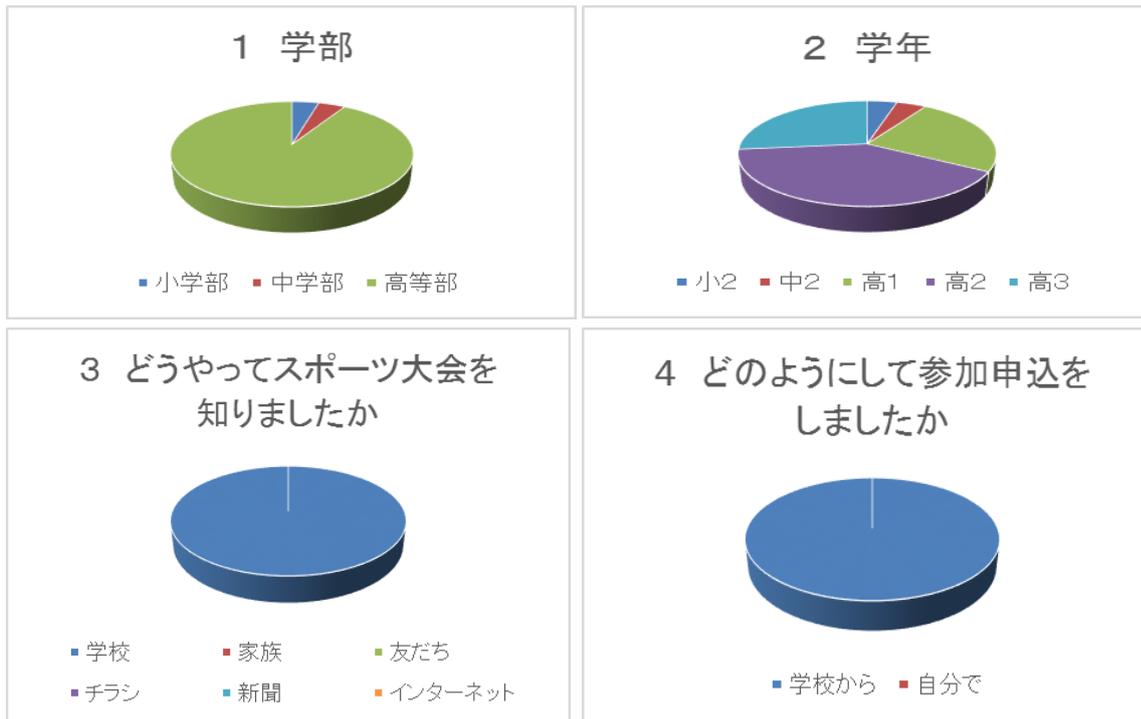
これらのことから、特別支援学校の児童生徒のスポーツライフをより豊かなものにしていくためには、在学中から授業や放課後活動でスポーツに参加する機会をつくるとともに、継続して実施することが大切であることがわかった。

しかし、在学中からスポーツと楽しみ、卒業後もスポーツを継続するためには、活動できる場所の確保や、そのための移動手段等、課題も見えてきている。

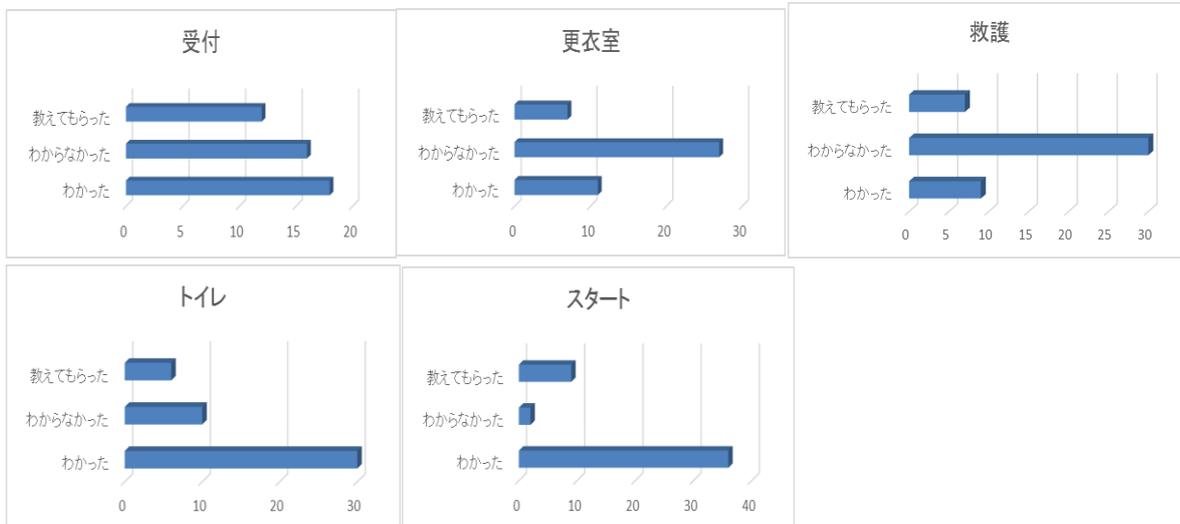
次年度は、子どもたちがニーズに応じたスポーツライフを継続できるように、マラソンに限らず、球技等の他のスポーツにも応用できる身体づくりに焦点をあてた取組を行うとともに、地域の大会や地域のスポーツクラブへの参加促進を図るための方策として、どのような合理的配慮が考えられるのかについて、研究を深めたいと考えている。

# スポーツ大会参加についてのアンケート

(対象:スポーツ大会参加の特別支援学校3校の児童生徒46名)



## 6 大会に関する各場所の理解



## Ⅲ-2 スポーツ普及促進事業・特別支援学校での選手育成事業

徳島県障がい者スポーツ協会

### I スポーツ普及促進事業

#### 1 はじめに

本年度は、昨年度までに取り組んできた内容を更に展開する形で行い、「見る（観る）スポーツから、するスポーツ、できるスポーツへの転換」を軸に実施した。

全体的なイメージは、障がい者のスポーツ活動によるＱＯＬの向上に加えて、障がいの有無や程度、年齢、性別等にとらわれず活動できる生涯スポーツとしての取組み、またスポーツを通じた地域社会との相互交流を図ることにより、障がい者がスポーツに参画する機会を増やし、共生社会の構築を目指した。

#### 2 事業の目的

平成27年度から平成29年度までの3年間、障がいの有無、年齢、性別等にかかわらず、より重度の障がい者の参加も含め、地域社会との交流等も踏まえた出張スポーツ教室を開催し、障がい者スポーツの普及、促進を図ってきた。

今年度は、2020年東京オリ・パラ控え、今後より一層、障がい者スポーツが注目を集めるこの機会を利用し、ボッチャ競技等の誰もが簡単に楽しむことができるスポーツを提供することにより、生涯を通して、継続的にスポーツに取り組めるような環境づくりを行う。

#### 3 事業の概要

##### (1) 出張スポーツ教室

徳島県内を3ブロック（県中部、県南部、県西部）に分けて開催し、地域での障がい者スポーツの普及を図る。また、多くの方への障がい者スポーツの周知、参加を図り、障がい者のスポーツ参加の機会をよりスムーズにするため、昨年度までの取組みの基盤となる、障がいの方が取り組みやすいと考えられる競技種目（ボッチャ、フライングディスク、カローリング）を継続し、「障がいのある人も無い人も、共に参加できる」共生社会型教室により、一層の交流を深める。

開催会場については、障がい者が地域社会でスポーツに参加できるための総合的な窓口として期待される総合型地域スポーツクラブでの活動を前提に、県内3ブロックでの開催会場を「体育施設」として基本的な事業展開を図る。

#### 4 成果及び評価

##### (1) 出張スポーツ教室

県中部、県南部、県西部の3ブロックで、10月から1月まで競技毎に開催し、参加対象者は、障がいのある人だけでなく、施設職員、支援者、家族等も含め一緒に参加することにより、障がい者スポーツ競技の普及を図った。種目については、身体、知的、精神障がい者を含め誰でも参加でき、スポーツに親しむ機会としての講習会とするため、重度脳性マヒ者を主体とするパラリンピックの正式競技であるボッチャ競技やフライングディスク競技、カローリング競技を本年度も継続して実施した。

また、「するスポーツ、できるスポーツ」の視点をより重視するため、積極的にローカルルールを適用して開催した。

今年度は、特にボッチャへの関心が高く、当協会が主催する大会に向けて、「もっと上手になりたい。」と出張スポーツ教室へ申し込む人も多く、昨年度65名だった参加者が今年度は76名と増加した。

このことにより、県内のボッチャ熱が年々高まっていることが伺え、当協会主催の全県大会でのレベルアップにも繋がっている。またボッチャ協会の指導員からは、「競技力が格段に向上している」との声もあった。

開催場所、日時等についても、より参加しやすい時期を心がけたが、施設行事や地域のイベントと重なり、全体の参加者数は昨年度より減ってしまった。このことから、各地域行事等の情報収集も必要だと感じた。

講師も、多くの方に障がい者スポーツの楽しさを知ってもらいたいという強い思いがあり、人数や障がいの程度等を考慮して、初めて参加する方でも取り組み易い指導内容を取り入れた教室を行い、「またしたい」、「大会に出てみたい」という感想も頂くことができた。

開催場所については、西部地区フライングディスク教室の会場を、今年度オープンしたばかりの県立西部防災館別館を利用することにより、身近でスポーツに取り組むことのできる会場が増えたことは好材料である。

出張スポーツ教室終了後には、参加した障がい者団体、支援学校関係者から指導依頼の問い合わせが増え、この事業が障がい者のスポーツ環境整備だけではなく、障がい者スポーツ指導者の活動の場を増やすことにも繋がり、今後の障がい者のスポーツ振興への道が広がっていることを実感できた。

#### 平成30年度 出張スポーツ教室日程表

##### 「ボッチャ」

地域	会場	期 日	参加者	講 師	合 計
県央部	県立障がい者交流プラザ体育館	10月8日(月) 14:30～16:30	27名	4名	31名
県南部	阿南市那賀川スポーツセンター	10月20日(土) 13:30～15:30	20名	1名	21名
県西部	池田総合体育館	11月18日(日) 13:30～15:30	22名	2名	24名
合 計			69名	7名	76名

昨年度 (65名)

##### 「フライングディスク」

地域	会場	期 日	参加者	講 師	合 計
県央部	県立障がい者交流プラザ体育館	12月23日(日) 14:30～16:30	4名	4名	8名
県南部	阿南市那賀川スポーツセンター	10月27日(土) 13:30～15:30	17名	2名	19名
県西部	県立西部防災館別館	1月12日(土) 13:30～15:30	4名	4名	8名
合 計			25名	10名	35名

昨年度 (62名)

「カローリング」

地域	会場	期日	参加者	講師	合計
県央部	県立障がい者交流プラザ体育館	1月27日(日) 14:30~16:30	17名	5名	22名
県南部	阿南市那賀川スポーツセンター	12月1日(土) 13:30~15:30	10名	4名	14名
県西部	池田総合体育館	12月22日(土) 13:30~15:30	9名	5名	14名
合計			36名	14名	50名

昨年度 (84名)

参考：徳島県障がい者スポーツ協会が出張スポーツ教室と連携する独自事業としての競技大会  
「ブロック別ボッチャ大会」

地域	会場	期日	参加チーム
県央部	徳島県立障がい者交流プラザ	平成30年9月23日	24
県南部	阿南市那賀川スポーツセンター	平成30年7月21日	12
県西部	池田総合体育館	平成30年8月18日	8
合計			44

「全県ボッチャ大会」

全県対象

会場	期日	参加チーム
徳島県立障がい者交流プラザ	平成30年11月25日	40



## 5 今後の課題

出張スポーツ教室は、重度障がい者の参加や「するスポーツ、できるスポーツ」をキーワードに展開した。地域により障がい者の参加者数に違いはあるが、今後も、障がい者スポーツを競技とレクリエーションスポーツの両面で普及・促進を図っていく必要がある。

3競技の参加者数を見てみると、ボッチャに関しては、3地域とも20名を超える参加者であったが、それに比べフライングディスク、カローリングは3地域とも20名に満たない参加者であった。これは、ボッチャ普及のため平成29年度より3地域でボッチャ地区大会を開催したことが参加者増員につながったと考えられる。このことから、障がい者スポーツの普及には、日々の活動の成果を試すことのできる地区大会を開催することも一つの方法として考えられる。

そして、次ページに掲載した本年度の参加者アンケート結果（総計）を見ると、参加者の内40歳以上が80.6%と大半を占め、20代、30代の参加が少ないことから、若年層へどのように呼びかけて、どのようにニーズを把握して参加しやすい環境を作っていくかが今後の課題である。

本事業と連携した当協会の独自事業である県央部、県南部、県西部の「3地域でのボッチャ大会」と「全県大会」の開催、フライングディスクやカローリングなどの各種競技大会を障がい者の方々の日々のスポーツ活動の目標となるように、継続して来年度以降も開催していく。

開催場所に関しては、空調設備の整っていない施設もまだ多く、暑い時期、寒い時期の活動には気を付けなければいけないが、ソフト面で補えるところを補い、障がいのある人が身近にスポーツを親しめる環境整備をすることが重要である。

また、障がい者のスポーツ実施率の向上には、障がい者スポーツ指導者、地域のボランティア、関係団体等と今まで以上に連携を図りながら進めていく必要がある。

今後は、障がいのある人がスポーツを楽しむことへの障害要因となっているものを見極め、より参加しやすい環境を多くの繋がりを持って、積極的に作っていくことが重要である。

## 6 おわりに

スポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利で、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会を確保」することを求められている。

スポーツは、ルールや用具を工夫することで、誰もが楽しむことができる。障がいのある人がスポーツに親しむには、ルールや用具を工夫するだけでなく、継続してスポーツに取り組むことができる機会や移動手段の確保、また地域で身近にスポーツを楽しむための指導者の確保も求められている。

当協会は、当面3カ年で、地域で活躍できる障がい者スポーツ指導者を増やすとともに、指導技術の向上にも力を入れ、総合型地域スポーツクラブをはじめとした、地域に根差した様々な関係機関とより一層の連携を図り、障がいのあるなしに関わらず一緒になって、身近な地域でスポーツを実施できる環境を目指している。

## 出張スポーツ教室アンケート結果(総計)

### 1 有効回答数

項目	H30年度	
	人数	%
参加者	130	
回答数	108	78.3%

### 2 性別

男	69	63.9%
女	37	34.3%
無記入	2	1.9%
小計	108	100.0%

### 3 年齢別参加状況

10歳代まで	3	2.8%
20歳代	8	7.4%
30歳代	8	7.4%
40歳代	31	28.7%
50歳代	18	16.7%
60歳代	20	18.5%
70歳以上	18	16.7%
無記入	2	1.9%
小計	108	100.0%

### 4 障がい別参加状況(複数回答有)

有	肢体	25	23.1%
	視覚	0	0.0%
	聴覚	7	6.5%
	内部	4	3.7%
	知的	39	36.1%
	精神	4	3.7%
	有のみ	0	0.0%
無	支援者	7	6.5%
	家族	4	3.7%
	その他	0	0.0%
	無のみ	7	6.5%
無記入		11	10.2%
小計		108	100.0%

5 どんなスポーツをしていますか(複数回答有)

陸上	1	0.6%
水泳	6	3.3%
アーチェリー	1	0.6%
卓球	4	2.2%
フライングディスク	34	18.9%
ボウリング	4	2.2%
バレーボール	4	2.2%
バスケットボール	4	2.2%
サッカー	2	1.1%
野球	4	2.2%
ソフトボール	1	0.6%
吹矢	1	0.6%
グランドソフトボール	0	0.0%
卓球バレー	1	0.6%
ペタンク	12	6.7%
グランドゴルフ	8	4.4%
ゲートボール	0	0.0%
ボッチャ	30	16.7%
カローリング	14	7.8%
その他	10	5.6%
していない	14	7.8%
無記入	25	13.9%
小計	180	100.0%

6 どの程度スポーツをしていますか

毎日	14	13.0%
週1~2回	30	27.8%
月1~2回	8	7.4%
年数回	18	16.7%
その他	20	18.5%
無記入	18	16.7%
小計	108	100.0%

7 スポーツ大会への参加状況

有	28	25.9%
無	58	53.7%
無記入	22	20.4%
小計	108	100.0%

8 教室に参加した感想は、どうでしたか

楽しかった	103	95.4%
その他	0	0.0%
無記入	5	4.6%
小計	108	100.0%

9 会場までの交通機関は、何で来ましたか

自家用車	41	38.0%
施設等の送迎	51	47.2%
公共交通機関	2	1.9%
徒歩	1	0.9%
その他	0	0.0%
無記入	13	12.0%
小計	108	100.0%

※ 以下の「10の項目」については、自由意見の内容を掲載した。

## 10 ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ダンス系もして欲しい。
- ・3連休の土曜日に大会を開催していただければ幸いです。
- ・ありがとうございました。楽しかったです。
- ・楽しかったです。また行きたいです。
- ・声をかけていただいたら参加しやすいと思います。
- ・もう1回したい。
- ・みんなとたのしかったです。またいきたいです。
- ・初めて参加しましたが、とても分かりやすく楽しかったです。最初の映像 わかりやすかったです、聴覚の方がいるので手話ができる方がいてくれたらと思いました。
- ・いろいろな人と楽しく参加できました。他の方も楽しそうでした。
- ・大会が土曜日だと有難いです。
- ・お世話になりました。勉強させていただきました。
- ・カローリングクラブに入りたい。
- ・初めてフライングディスクを体験しましたが、とても楽しかったです。個人でも続けてみたいと思いました。
- ・障がい者スポーツの楽しさを皆に広げて下さい。
- ・お手伝いの方が大変やさしかったです。
- ・参加者が多かった。
- ・またしてほしい。

## Ⅱ 特別支援学校での選手育成事業

### 1 はじめに

平成27年度からこれまで3年間、継続して実施した本事業は、今年度も基本コンセプトを障がい者スポーツに親しむためには「運動経験の積み重ねや習慣が大切であり、この習得が学校を卒業した後も、健康の維持、増進、継続したスポーツ活動の参加につながると共に、社会参加への足がかりとなり得る。」との考えに立って実施した。特に、3年間の取り組みの結果、評価を得たことから、他の支援学校へも呼びかけ、事業を発展・拡大した。

### 2 事業の目的

基礎体力向上を希望する特別支援学校に、トレーナー等を派遣し、生徒たちの特性をつかみ、基本的運動能力を伸ばすプログラム作成するとともに先生方にも指導方法を伝え、学校で継続的に運動ができる環境づくりを行い、スポーツ本来の意味でもある「楽しむ」を体感してもらうことにより、学校卒業後も継続してスポーツへの参加意欲を高める。

具体的には、それぞれの生徒に対し、「基礎体力の向上、体幹のバランス保持、基本的な運動能力の向上を目指す」ため、専門的な知識、ノウハウのあるトレーナー等の専門家を派遣し、実施する。

また、バスケットボールを通して、個々の体力・技術力向上はもちろんのこと、県特別支援教育課等の教育機関、スポーツ競技団体、トレーナー等と連携し、それぞれの学校の課題・要望に対応したプログラム作りを行い、各学校でジュニア育成が継続的にできる環境を整える。

### 3 事業の概要

#### (1) トレーナー等の派遣（2名）

鳴門教育大学附属特別支援学校を対象に、徳島県内でただ一人の公認障がい者スポーツトレーナー（公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会）、理学療法士、作業療法士の専門家を2名ずつ8回派遣し、基礎的運動能力を伸ばし、スポーツの普及に努める。

#### (2) 特別支援学校での選手育成事業

昨年度までは国府支援学校のバスケットボールクラブを対象とし行ったが、今年度は新たに3校の特別支援学校を加え、合計4校のバスケットボールクラブを対象に、東部と西部に分けた2回ずつの合同練習へトレーナー等を派遣し、個々の体力・技術向上に加え、基本的運動能力の向上に向けたプログラムを実施する。個々の能力の違いを考慮した効率的な指導を課題に取り組む。

#### (3) 特別支援学校のバスケットボール交流試合

選手育成事業で取り組んだ指導方法・トレーニング方法の最終確認及び成果の発表の場として交流試合を実施する。

### 4 成果及び評価

#### (1) トレーナー等の派遣

##### ① 鳴門教育大学附属特別支援学校中学部・高等部

プログラムの内容は、基礎体力の向上、体幹のバランス・維持など、基本的運動能力を伸ばし、スポーツに親しむための導入部分とし、サーキットトレーニングとチームプ

レイを学ぶためのゴールボール（アイマスク無）とした。

プログラムの作成にあたっては、昨年度までの取り組みも踏まえながら、学校側の要望、また検証結果を加えて作成した。

トレーナー派遣は、平成28年度から継続的に行っているため、プログラムを授業に取り入れるなど普段から活用して頂いている。

生徒達は、トレーナーの話を真剣に聞き、日頃動かすことの少ない身体部位を意識して動かすことの大切さ感じることができていた。また、自分の順番ではないときも他の生徒を自発的に応援する姿も印象的であった。

最終日のボールを転がして行うゴールボールでは、ハンディはあったものの初めて教員チームに勝利することができ、この事業で培ってきたものが実感できる集大成となった。終了後、生徒より、「(全国大会の県予選である)ノーマピック・スポーツ大会に出場したい」との意見があり、スポーツを通して目標となるものができ、大変意義のある事業となった。教員や保護者からも今後も事業を継続して欲しいとの強い要望があった。

事業開始前に学校側で4月に実施したスポーツテストと事業終了直前の2月に実施したスポーツテストの比較を行った結果は、別表のとおりである。

今回のプログラムは最初に記載した通り、体幹のバランス・維持に重点を置いたプログラムだったため、4月時点と比べ、柔軟性の部分で多くの生徒の数値が上がっているが、反復横跳びの結果は思いのほか伸びなかった。これは、2月という寒い时期的な事もあると考えられるが、やはり、その種目や個々に合ったプログラムメニューの必要性を改めて感じるころであった。

今回のプログラムを基に、一人ひとりに合った個別のプログラムを作成することで、より身体能力を伸ばすことが期待できると思われ、教員からは、「生徒たちはスポーツの楽しさを味わいながら身体の動かし方を学ぶことができた。教員側も授業で具体的に生かせる内容を教えてもらったので良かった」との話があり、本事業を通して、体を動かすことへの意識の向上を図ることができたと思われる。

※実施プログラムは別表参照

(別 表)

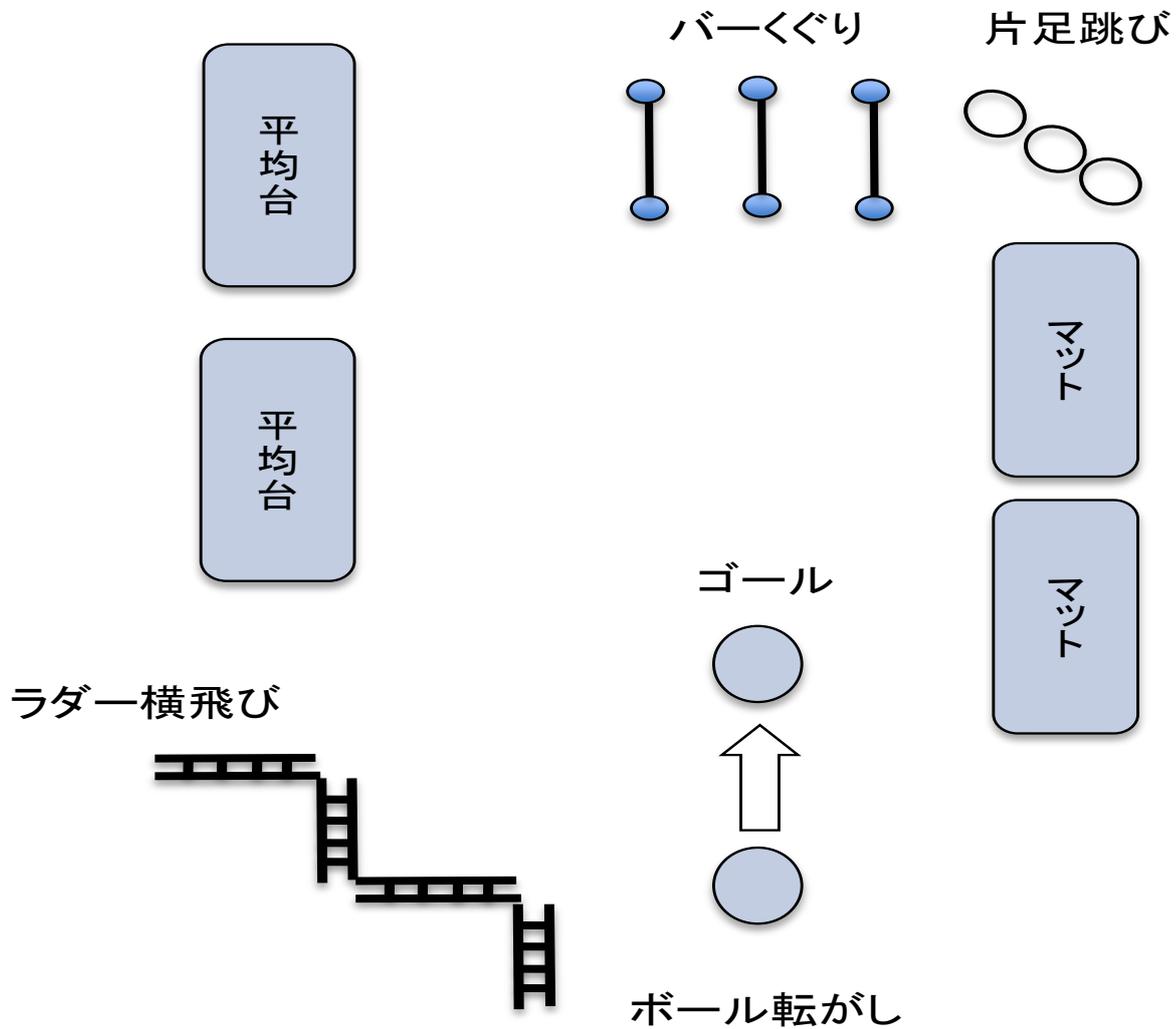
平成30年度 スポーツテスト記録 (4月, 2月比較)

	高等部	4月	2月	4月		2月		4月	2月	4月	2月	4月	2月	
		長座体前屈 (cm)		握力(kg)		反復横跳び (回/20秒)		立幅跳び (cm)		上体起こし (回/30秒)		縄跳び (回/30秒)		
1年	A	19	23	右	24.0	24.5	40	33	108	116	19	19	63	60
				左	24.5	23.5								
2年	B	34	40	右	13.0	20.0	41	31	126	111	17	19	54	65
				左	15.0	20.0								
	C	29	33	右	19.0	20.0	36	30	121	107	13	13	49	66
				左	26.0	18.0								
	D	21	18	右	23.0	21.0	35	26	94	118	15	14	41	58
				左	28.0	26.0								
E	36	37	右	38.0	26.0	52	44	134	123	19	19	71	65	
			左	34.0	26.0									
F	59	40	右	38.0	28.0	52	42	180	187	20	24	90	103	
			左	34.0	31.0									
3年	G	36	38	右	20.0	24.0	23	21	125	128	15	14	70	68
				左	22.0	20.0								
	H	49	56	右	14.0	17.0	14	21	75	80	10	10	20	30
				左	12.0	13.0								
	I	42	42	右	15.0	22.0	23	26	128	57	14	14	49	41
				左	19.0	18.0								

	中学部	4月	2月	4月		2月		4月	2月	4月	2月	4月	2月	
		長座体前屈 (cm)		握力(kg)		反復横跳び (回/20秒)		立幅跳び (cm)		上体起こし (回/30秒)		縄跳び (回/30秒)		
中学部	J	28	15	右	27.0	17.0	31	38	130	165	19	22	56	45
				左	25.0	16.0								
	K	19	26	右	23.5	26.0	14	28	107	105	19	18	54	51
				左	25.0	26.0								

※ 下図の平成30年度鳴門教育大学附属特別支援学校のサーキット配置図は、平成29年度最終難易度配置図を基準に、第1回目から設営した。

(サーキット配置図)



## (2) 特別支援学校での選手育成事業

(東部)

日 時 平成30年8月8日(水)

平成30年1月7日(月)

場 所 国府支援学校体育館

参加者 国府支援学校・板野支援学校バスケットボールクラブ員

(西部)

日 時 平成30年8月7日(火)

平成30年8月28日(火)

場 所 池田支援学校美馬分校体育館

参加者 池田支援学校・池田支援学校美馬分校バスケットボールクラブ員

バスケットボールクラブを対象とした選手育成事業では、昨年度までの対象校だった国府支援学校の他に板野支援学校、池田支援学校と池田支援学校美馬分校を加え、4校を対象に合同練習を行った。単独ではできない練習内容も、多人数で練習することで、練習メニューも増え、より実戦に近い練習も実施できるメリットがあった。加えて、他校の生徒とコミュニケーションを図ることにより、お互いを意識し合い、競い合うことでモチベーションのアップにも繋がった。

普段、何気なく行っている練習もトレーナーや競技指導者から、一つ一つ意味を分かりやすく伝えてもらうことにより、「なぜこの動きにはこの練習が必要か」ということを理解し、それを意識して練習することで、個々のレベルアップも図れたと考える。

また、本事業のメニューを各校が持ち帰り、普段の練習に取り入れることにより、今までの練習メニューの見直しを図ることができたようだ。

## (3) 特別支援学校バスケットボールクラブ交流試合

日 時 平成31年2月5日(火)

場 所 うだつアリーナ

参加者 国府支援学校・板野支援学校・池田支援学校・池田支援学校美馬分校  
バスケットボールクラブ

(2)の選手育成事業で取り組んだことの成果発表の場として、4校での交流試合を行った。各校のレベル差が出るのが懸念されていたが、教員が連携し、チーム編成やルールを工夫することにより、生徒が生き生きとプレーする環境を作ることができた。

また、選手たちは合同練習で培った体の動きも意識しながら、伸び伸びとプレーし、迫力のある試合が展開された。

各校の教員から、「練習する上で目標となるような大会を続けて欲しい」との要望も頂き、生徒からは、「もっと上手になりたい」、「バスケットボールを続けたい」という声も聞かれ、より一層、練習に取り組む意欲の向上が期待できると感じた。

## 5 今後の課題

特別支援学校のスポーツクラブは、一般校のように練習試合や大会がないため、目標を持って練習に取り組むことが難しい環境にある。そのような中、本事業のように、関係団体と連携し、合同練習や交流試合を行うことができたことは、選手にとって、とても刺激になったと推測される。

今後、特別支援学校同士がより活発にスポーツを通して、交流することができれば、生徒たちのスポーツ活動は、生涯スポーツに繋がるきっかけになると考える。

ただ、特別支援学校を卒業後、地域でスポーツを続けるためには、障がいや障がい者スポーツに対する理解、そして指導者が不可欠である。

そのため、地域に根付いている総合型地域スポーツクラブ等と連携し、誰もが地域で、スポーツに取り組むことができる環境づくりが急がれる。

## 6 おわりに

事業を終え、指導に当たったトレーナーからは、「基本的な運動能力が確実に向上している」との声があり、今年度の事業の成果が認められた。教員側からは、「体幹トレーニングの重要性や学校でもできるトレーニング方法を知ることができ、今後も学校全体で取り組んでいきたい」との意見を聞くことができた。生徒自身や教員側にも身体運動に対する考え方、取り組み方の変化が感じられる。このことに加え、学校を卒業してからもスポーツに取り組む機会を増やしていくためには、地域での受け皿が不可欠である。当協会としても、地域スポーツの基盤となる総合型地域スポーツクラブ等との連携についても具体的に探っていきたい。



(別紙)

鳴門教育大学附属特別支援学校トレーナー等派遣実施プログラム

日程	9月28日(金)	時間	14時 30分 ~ 16時 00分
記載者	遠藤 恭弘 ・ 加藤 達也		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校		8 名
[実施内容]			
<u>(1) 体操 フットワーク型動的ストレッチ</u> ・脚抱え 3歩で脚を抱える ・四股踏み 5歩でしこをふむ ・尺取り虫 1往復		<u>(3)ゴールボール</u> (1ゲーム5分) ・2チームに分かれ実施 ・コーン4つ ・ドッジボール1個 5分×4セット	
<u>(2)サーキット 2セット</u> ・マット2枚、フラフープ3個 ・コーン6つ、バー3本 ・平均台2台 直線上に設置 ・片手ボール転がし(利き手)		※4 vs4でプラス教員二人を各チームに一人ずつ配属	
[備考欄] 今年度、初めての育成事業として昨年度とほぼ同様のメニューを実施した。初回ということもあり、継続メンバーや新規メンバーの様子を見るという意味を含めて昨年とほぼ同様の内容になったが、以前より校内活動として昨年度の内容を実施継続していた様子で、当日のウォーミングアップの体操もフットワーク型で歩きながら動的ストレッチを実施していく様に変更した。学校教員がエンドラインからエンドラインまでウォーミングアップを実施していたのでその延長として実施。動きながらのストレッチなので若干難しい点もあるが、生徒はアドバイス内容をしっかり聴きながら汗を流していた。人数も昨年より少数で、順番が早く回り内容の濃くなっている様だった。間で水分補給を2回ほど時間を作り、最後のゴールボールでは学校教員も参加して貰い、さらなる交流を図ってもらった。			

日程	10月12日（金）	時間	14時 30分 ～ 16時 00分
記載者	近久 真哉 ・ 美馬 久美子		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校	8	名
[実施内容]			
<u>(1) 静的ストレッチ</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジャックナイフストレッチ</li> <li>・ 股割りストレッチ</li> <li>・ ウィンギング</li> </ul>		<u>(3)手足トレーニング 1往復</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キリン歩き</li> <li>・ クマ歩き</li> <li>・ アザラシ歩き</li> </ul>	
<u>(2)体操 フットワーク型動的ストレッチ</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脚上げ 3歩で脚を上げる</li> <li>・ 踵タッチ 3歩で身体を捻りながら踵タッチ</li> <li>・ 身体捻れ歩行</li> <li>・ 尺取り虫 1往復</li> <li>・ スパイダーマン 1往復</li> </ul>		<u>(4)サーキット 3セット</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット2枚、フラフープ3個</li> <li>・ コーン6つ、バー3本</li> <li>・ 平均台2台 直線上に設置</li> <li>・ 片手ボール転がし(利き手)</li> </ul>	
[備考欄]			
<p>今年度、2回目の育成事業であった為前回のメニューに追加としてと、学校教員が行っていたウォーミングアップに加えてジャックナイフストレッチ、股割りストレッチ、上肢のストレッチとして肩甲骨を動かすウィンギングを実施する。その後、フットワーク型で歩きながら動的ストレッチを実施するも、体幹の回旋動作が入った踵タッチでは出来ている生徒と出来ない生徒の差があったため、身体を捻りながら歩く内容に変更した。手足のトレーニングとして四つ這いや高這いなどを生徒のペースにて行った。難しい動作もあったが、生徒は一生懸命に指導した内容に取り組んでいた。途中で水分補給を2回ほどし、最後のサーキットを実施した。</p>			

日程	10月19日（金）	時間	14時 30分 ~ 16時 00分
記載者	海部 忍 ・ 秋山 健太		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校	11	名
[実施内容]			
<p>(1) <u>体操 フットワーク型動的ストレッチ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジャックナイフストレッチ10秒×3セット</li> <li>・ 股割りストレッチ10秒×3セット</li> <li>・ ウィンギング5秒ずつ×3セット</li> <li>・ 3歩SLR 1往復</li> <li>・ 3歩体幹ひねり 1往復</li> <li>・ 尺取り虫 1往復</li> </ul> <p>(2) <u>サーキット 2セット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット2枚、フラフープ3個</li> <li>・ コーン6つ、バー3本</li> <li>・ 平均台2台 平行に設置</li> <li>・ S字平均台1台</li> <li>・ 片手ボール転がし(利き手)</li> </ul>		<p>(3) <u>ゴールボール</u></p> <p>(1ゲーム5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2チームに分かれ実施</li> <li>・ コーン4つ</li> <li>・ ドッジボール1個</li> </ul> <p>5分×2セット</p> <p>※6 vs 5プラス教員1人にて対戦</p>	
[備考欄]			
<p>3回目の育成事業であったが、1回目と2回目に実施した内容から、ピックアップして対応した。本事業を実施するにあたり、毎回メニューを変更することは参加者の身体活動や運動に対する学習において般化しにくいと考えられるため、今回のメニューを元に、ある程度一貫した内容で進めていくべきであると思われる。参加者に運動の学習が得られ、課題自体が安易なものになった際は、その都度内容を追加もしくは変更していく。学校教員が行ってくれているウォーミングアップを確認する限り、股関節と肩関節の動きの硬さが認められたため、能動的ストレッチなどは継続して実施する必要があると思われる。昨年度から継続し参加している生徒も多く、サーキットの課題内容は少しレベルアップしても良いと感じた。ゴールボールでは学校教員も可能な限り参加して貰い、ゲームのルールなどを共有してもらうことで学習効果を期待するとともに、チームワークの構築に努める。</p>			

日程	1月11日 (金)	時間	14時 30分 ~ 15時 30分
記載者	海部 忍 ・ 遠藤 恭弘		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校	9	名
[実施内容]			
<p>(1) <u>ストレッチ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開脚ストレッチ (左右、正面)</li> <li>だるま (左右、前後、回転)</li> <li>背伸び (垂直、左右)</li> </ul> <p>(2) <u>ランニング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育館ランニング 6周</li> </ul> <p>(3) <u>サーキット 3周</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マット2枚、フラフープ3個</li> <li>コーン6つ、バー3本</li> <li>平均台2台 平行に設置</li> <li>ラダー (L字)</li> <li>S字平均台1台</li> <li>片手ボール転がし(利き手)</li> </ul>		<p>(3) <u>ゴールボール</u> (1ゲーム3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2チームに分かれ実施</li> <li>コーン4つ</li> <li>ドッジボール1個</li> <li>3分×4セット</li> </ul> <p>※ 5 vs 4 プラス教員にて対戦</p>	
[備考欄]			
<p>4回目の育成事業であり、時間が1時間と普段よりも短いため、ウォーミングアップの体操を省略した。ストレッチ後に、ランニングを実施し、サーキットに対する体の準備を行う。ランニングの際に、上肢の振りが少なく、四肢協調性に乏しいランニングフォームの生徒が多く見られた。次回からもランニングを継続する予定であるが、その際には上肢の振りを意識したり、ストップ・スタートを用いて動きの切り替えを取り入れていく。サーキットでは平均台の移動に関して、フリスビーの裏にボールを乗せ、両手で把持して移動するよう課題の難易度を上げて対応している。ゴールボールでは学校教員も可能な限り参加して貰うことで、ゲームのルールなどを共有につながり、生徒の学習効果を期待する。</p>			

日程	1月18日（金）	時間	14時 30分 ~ 15時 30分
記載者	海部 忍 ・ 美馬 久美子		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校		11 名
[実施内容]			
<p>(1) <u>ストレッチ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハムストリングス ストレッチ</li> <li>・ 開脚ストレッチ（左右、正面）</li> <li>・ だるま（左右、前後）</li> <li>・ 背伸び（垂直、左右）</li> <li>・ 尺取り虫 10set</li> </ul> <p>(2) <u>ランニング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ランニング前 腕振り歩き 1周</li> <li>・ 体育館ランニング 3周×2 set</li> </ul> <p>(3) <u>サーキット 3周</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット2枚、フラフープ3個</li> <li>・ コーン6つ、バー3本</li> <li>・ 平均台2台 平行に設置</li> <li>・ ラダー（L字）</li> <li>・ S字平均台1台</li> <li>・ 片手ボール転がし(利き手)</li> </ul>		<p>(3) <u>ゴールボール</u></p> <p>（1ゲーム3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2チームに分かれ実施</li> <li>・ コーン4つ</li> <li>・ ドッジボール1個</li> <li>・ 3分×2セット</li> </ul> <p>※5 vs 5 プラス教員（計8対8）にて実施</p>	
[備考欄]			
<p>5回目の育成事業は、今回も実施時間が1時間であるため、前回と同様にウォーミングアップの体操を省略した。ストレッチ後に、ランニングを実施し、サーキットに対する体の準備を行う。ランニング前に、上肢の振りを意識した歩行を実施し、ランニング時における四肢協調性獲得を目指す。ランニングは3周走行後、合図にて逆走を行い、運動の切り替えを実施する。サーキットでは平均台の移動に関して、フリスビーの裏にボールを乗せ、両手で把持して移動するよう課題の難易度を上げたまま対応している。ゴールボールでは生徒の運動能力が偏りすぎないように教諭にてチーム分けを行ってもらうことで、力が均衡した試合が実施できた。チーム内で一度パスを出してからシュートするというルールがやや定着していないため、今後もルール変更は行わずに対応すべきであると考えている。</p>			

日程	1月25日（金）	時間	14時 30分 ~ 15時 30分
記載者	海部 忍 ・ 遠藤 恭弘		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校	11	名
[実施内容]			
(1) <u>ストレッチ</u>		(3) <u>ゴールボール</u>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハムストリングス ストレッチ</li> <li>・ 開脚ストレッチ（左右、正面）</li> <li>・ だるま（左右、前後）</li> <li>・ 背伸び（垂直、左右）</li> <li>・ 尺取り虫 10set</li> </ul>		（1ゲーム3分） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2チームに分かれ実施</li> <li>・ コーン4つ</li> <li>・ ドッジボール1個</li> <li>・ 3分×3セット</li> </ul>	
(2) <u>ランニング</u>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ランニング前 腕振り歩き 1周</li> <li>・ 体育館ランニング 3周×2 set</li> </ul>			
(3) <u>サーキット 3周</u>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット2枚、フラフープ3個</li> <li>・ コーン6つ、バー3本</li> <li>・ 平均台2台 平行に設置</li> <li>・ ラダー（L字）</li> <li>・ S字平均台1台</li> <li>・ 片手ボール転がし(利き手)</li> </ul>		※5 vs 5 プラス教員（計7対7）にて実施	
[備考欄]			
<p>6回目の育成事業は、今回もウォーミングアップの体操を省略し、1時間の実施であった。ストレッチでは、生徒の柔軟性に向上が認められ、ハムストリングスのストレッチでは手先が足先後につくほどになっている生徒が多く見られた。今回もランニング前に、上肢の振りを意識した歩行を実施することで、ランニング時の四肢協調性が向上してきていた。ランニングは3周走行後、合図にて逆走を行い、運動の切り替えを実施する。サーキットの平均台の移動は、フリスビーの裏にボールを乗せ、両手で把持して移動するよう難易度そのまま対応している。今回もゴールボールでは生徒の運動能力が偏りすぎないように教諭にてチーム分けを行ってもらうことで、力が均衡した試合が実施できた。今回はチーム内で一度パスを出してからシュートするというルールがやや定着していた。全体として身体機能もゲームなどの行動面にも向上が認められる。</p>			

日程	2月8日(金)	時間	14時 30分 ~ 16時 00分
記載者	海部 忍 ・ 秋山 健太		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校	9	名
[実施内容]			
<p>(1) <u>ストレッチ</u> (各15秒2セットずつ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハムストリングス ストレッチ</li> <li>・ 開脚ストレッチ(左右、正面)</li> <li>・ 大腿四頭筋ストレッチ</li> <li>・ だるま(左右、前後)</li> <li>・ 背伸び(垂直、左右)</li> <li>・ 尺取り虫 10set</li> </ul> <p>(2) <u>ランニング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ランニング前 腕振り歩き 2周</li> <li>・ 体育館ランニング 3周×2set</li> </ul> <p>(3) <u>サーキット 2周×2セット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット2枚、フラフープ3個</li> <li>・ コーン6つ、バー3本</li> <li>・ 平均台2台 平行に設置</li> <li>・ ラダー(L字)</li> <li>・ 跳び箱(高、低)</li> <li>・ 片手ボール転がし(利き手)</li> </ul>		<p>(3) <u>ゴールボール</u></p> <p>(1ゲーム3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2チームに分かれ実施</li> <li>・ コーン4つ</li> <li>・ ドッジボール1個</li> <li>・ 3分×3セット</li> </ul> <p>※4 vs 5 プラス教員(計7対7)にて実施 ※3セット目は、教員数を一人減らし実施</p>	
[備考欄]			
<p>7回目の育成事業は、時間も通常通りに戻り90分事業であった。ウォーミングアップの体操を実施後、ストレッチなど、上記の内容を実施した。ストレッチでは、前回までにハムストリングスの柔軟性向上が認められたため、大腿四頭筋のストレッチを追加した。ランニング前の、上肢の振りを意識した歩行を実施することで、ランニング時の四肢協調性が向上している。サーキットではS字平均台を跳び箱を使用した両足ジャンプ課題に変更した。高さのあるところから、ジャンプすることで着地時の体幹の踏ん張り(構え)と体重が下肢にかかることで体性感覚の刺激入力も得られると考える。体幹トレーニングを意識した鉛筆コロコロに関しても、上下肢での勢いを利用せず体幹の筋力での遂行が可能となってきている。ゴールボールでは教諭にてチーム分けとポジションの構成を検討してもらうことで、力の均衡した試合が実施できた。今回もチーム内で一度パスを出してからシュートするというルールで実施した。</p>			

日程	2月22日(金)	時間	14時30分～16時00分
記載者	海部 忍 ・ 遠藤 恭弘		
場所	鳴門教育大学附属特別支援学校		11 名
[実施内容]			
<u>(1) ストレッチ</u> <u>(各15秒2セットずつ)</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハムストリングス ストレッチ</li> <li>・ 開脚ストレッチ(左右、正面)</li> <li>・ 大腿四頭筋ストレッチ</li> <li>・ だるま(左右、前後)</li> <li>・ 背伸び(垂直、左右)</li> <li>・ 尺取り虫 10set</li> </ul>		<u>(3) ゴールボール</u>  (1ゲーム3分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2チームに分かれ実施</li> <li>・ コーン4つ</li> <li>・ ドッジボール1個</li> <li>・ 3分×4セット</li> </ul>	
<u>(2) サーキット 2周×2セット</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット2枚、フラフープ3個</li> <li>・ コーン6つ、バー3本</li> <li>・ 平均台2台 平行に設置</li> <li>・ ラダー(L字)</li> <li>・ 跳び箱(高、低)</li> <li>・ 片手ボール転がし(利き手)</li> </ul>		※生徒 vs 教員にて実施 ※教員は左手投げ、人数を徐々に減らす ※教員のゴール幅を減少させる	
[備考欄]			
<p>8回目、最終回の育成事業はウォーミングアップの体操を実施後、上記の内容を実施した。今回はゴールボールに時間を多く取る予定のためランニングは実施しなかった。ストレッチでは、今年度事業開始時に比較して生徒たちの柔軟性に向上が認められた。サーキットでは各課題を正確に実施することが可能となってきており、自身の体に対する意識の向上が認められる。ゴールボールでは生徒vs教員のチームにて対戦した。教員チームのゴールを狭めるなど工夫して、ゲームが接戦となるように設定した。最終的には生徒チームの勝利となり、今回のような成功体験は今後の生徒たちのスポーツ活動に対する意欲の継続に繋がるものと考えられる。回数を重ねるごとに、身体的に良い変化が見られるとともに、ゲームに関しても単独プレーからチームを意識した内容へと変化が見られた。本事業を通して得られた経験は、生徒たちにとって心身ともに意義のあるものであったと思われる。</p>			

支援学校バスケットボールクラブ実施プログラム  
(東部)

日程	8月8日 (水)	時間	10時00分～12時00分
場所	国府支援学校		19 名
<p>[実施内容]</p> <p><u>1.準備体操</u> 体幹、四肢ストレッチ</p> <p><u>2.身体コントロール</u> ①高這いでハードル跨ぎ ②腹ばいでハードルくぐり ③高這いでジグザグ走行 ④頭の上にマーカーを置いて落とさないように歩行</p> <p>3.ステップワーク ①まっすぐ走る ②後ろ向きで走る ③サイドステップ(リズムよくするver.、腰を落として行うver.) ④マーカーのところまでダッシュ→バック走でスタート地点まで戻る→ダッシュ ⑤ダッシュ→笛の合図で止まる ⑥ダッシュ→笛の合図でスタート地点までバック走→ダッシュ ⑦ジグザグ走(前向き、横向き、後ろ向き) ⑧マーカーを四角形に作り、4箇所それぞれに1人ずつ立つ。笛の合図で斜め方向へ一斉に走る。 (当たらないように避ける)</p> <p>4.ハンドリング</p> <p>5.ドリブルシュート</p> <p>6.フリースロー</p>			
<p>[備考欄]</p> <p>今年度初めての指導であり、一つずつの動きを説明と模範をしながら実施。生徒達は真剣に取り組むことができていた。</p>			

日程	1月7日 (月)	時間	10時00分～12時00分
場所	国府支援学校		22 名
<p>[実施内容]</p> <p><u>1.準備体操</u> 体幹、四肢ストレッチ</p> <p><u>2.身体コントロール</u> ①ワームウォーク ②クモ歩き ③カエルジャンプ ④カンガルー歩き</p> <p><u>3.視覚的なリアクションワーク</u> 指導者がボールを弾ませたら反応する ①ダッシュ ②ダッシュ&amp;ストップ ③ダッシュ&amp;バック ④クロスステップ ④クロスステップ&amp;切り返し</p> <p><u>4.転がしドッジボール</u></p> <p><u>5.様々な種類のパス練習</u></p> <p><u>6.対抗試合</u></p>			
<p>[備考欄]</p> <p>バスケットでは激しいストップ、切り返しが多く行われる。それに耐えうるために必要な力を自分の身体を支える動き（アニマルウォーク）を通して身につけること目指した。また、ボールや相手、味方の動きに合わせて動く必要があるため視覚的なリアクションワークも実施した。転がしドッジボールは、様々な方向に注意を向けること、ボールや人に当たらないように身体をコントロールすることを目的として行った。</p>			

(西部)

日程	8月7日 (火)	時間	8時 30分 ~ 10時 00分
場所	池田支援学校 美馬分校		14 名
[実施内容]			
<u>(1) ジョギング</u>		<u>(6) ボールを持つての競技練習</u>	
・左回り (3週) ・右回り (3週)		・ドリブルシュート (右) みんなで50本 ・シュート対決	
<u>(2) スタティックストレッチ</u>		本校生徒分校生徒を混ぜたチームを2チームを作り それぞれ5分間で何本入ったかを競う	
・上肢 ・下肢 ・体幹			
水分補給			
<u>(3)体幹トレーニング及び障害予防</u>			
・スクワット動作の確認 ・腹圧の確認 仰臥位→立位			
<u>(4)ダイナミックストレッチ</u>			
・上半身、下半身 腕の対角上げ、脚の蹴り上げ、ひざの抱え込み、 股関節回しアウト→イン イン→アウト、インチワーム、			
5分休憩			
<u>(5)フットワーク</u>			
・エンドラインまでダッシュ ・その場ジャンプ5回 エンドラインまでダッシュ ・サイドステップ 左右 ゆっくり ・サイドステップ 左右 スピードを上げてミラー ツイスト、ツイストミラー			
[備考欄]			
初回の指導であり、バスケットボールに必要な基本的な動きの確認をしながら実施。			

日程	8月28日（火）	時間	8時 30分 ～ 10時 00分
場所	池田支援学校 美馬分校		16 名
[実施内容]			
<u>(1) ジョギング</u>		<u>(5) 5 vs 5</u>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・左回り（3週）</li> <li>・右回り（3週）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校Aチームvs分校Aチーム（5分間）</li> <li>・本校Bチームvs分校Bチーム（4分間）</li> <li>・本校分校混合チームvs先生チーム（7分間）</li> </ul>	
<u>(2) スタティックストレッチ</u>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上肢</li> <li>・ 下肢</li> <li>・ 体幹</li> </ul>			
水分補給			
<u>(3)体幹トレーニング及び障害予防</u>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクワット動作の確認 スプリットスクワット</li> <li>・腹圧の確認 ヒップリフト、フロントプランク、サイドプランク</li> </ul>			
<u>(4)ダイナミックストレッチ</u>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上半身、下半身 腕の対角上げ、脚の蹴り上げ、ひざの抱え込み、 股関節回しアウト→イン イン→アウト、インチワーム、</li> </ul>			
<u>(5)リズムトレーニング</u>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに合わせて体を動かす 前進、後進、横移動（脚の入れ替え）</li> </ul>			
5分休憩			
[備考欄]			
<p>リズムトレーニングを追加して実施した。集中力を高め、リズム感を養うことでステップ等にも応用することが可能である。初めは自分の飛びたいリズムで飛んでいたが、回数を重ねるうちにリズムを聞きながら行うことが出来、試合前のウォーミングアップになった。</p>			

### Ⅲ－３ 共創共楽スポーツ推進事業

徳島県県民環境部県民スポーツ課

- 1 事業の目的 障がい者スポーツの普及等を推進していくためには、各市町村のスポーツ推進委員、レクリエーション協会、社会福祉協議会等と連携して、それぞれの暮らす地域でスポーツを楽しむことのできる環境づくりが重要であり、生涯スポーツ振興の核である総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」という。)においても、障がい者スポーツを推進するための理解や活動の場づくりを進めているところである。

このような背景から本事業では、総合型クラブや様々な関係機関と連携体制を共に創り、身近な場所でスポーツを共に楽しむことができる環境整備を図り、障がい者の継続的なスポーツの実施を促進する。

#### 2 事業の概要

- (1)障がい者が参加しやすいスポーツプログラムの実施
- (2)関係機関と連携したスポーツ・レクリエーションイベントの実施
- (3)障がい者と健常者が一緒に楽しめる場を創る人材の研修
- (4)その他、普及啓発のための広報活動

#### 3 取組内容

- (1)障がい者が参加しやすいスポーツプログラムの実施

・実施内容

総合型クラブ名	事業内容
NPO法人 あいずみ スポーツクラブ	<p>①障がい者ニュースポーツ体験</p> <p>開催日 平成30年9月9日(日)</p> <p>会場 藍住町体育センター</p> <p>参加者 参加者25名(内、障がい者15名)</p> <p>内容 障がい者スポーツ指導員等の指導の下、参加者を3グループに分けて、囲碁ボール、ラダーゲッター、ペタンクや風船バレー等、誰もが気軽に楽しめるニュースポーツを実施した。今までスポーツをしていなかった方の参加もあり、スポーツを始めるきっかけづくりの場にもなった。</p>
	
	<p>②障がい者健康運動教室(6回)+栄養教室(3回)</p> <p>期間 平成30年8月24日(金)～平成31年2月6日(水)</p> <p>会場 藍住町体育センター、藍住町福祉センター</p> <p>参加者 総計69名(内、障がい者58名)</p> <p>内容 ニュースポーツやレクリエーションを定期的に行うことで、運動する機会をつくり、健康増進、体力向上を目指すと共に、運動する楽しさを伝えた。併せて、管理栄養士による栄養指導を行い、運動しやすい身体作りを行った。</p>
	

NARUTO総合  
型スポーツクラ  
ブ

①CHALLENGE-MATCHふれあい交流大会

開催日 平成30年11月25日(日)  
10:00~15:00

会場 鳴門市営球場  
参加者 徳島ウイングス、龍野アルカディア  
35名(内、障がい者26名)

内容 徳島県内には障がい者軟式野球チームがないため、兵庫県の龍野アルカディアを招き、交流試合を行った。この交流試合を通じて、競技環境の整備を図ることができたとともに、心身の健康維持に寄与し、さらには競技レベルの向上にもつながった。また、障がい者野球を多くの方に知ってもらうことができた。



②障がい者軟式野球教室(2回)

開催日 平成31年2月10日(日)・2月24日(日)

会場 鳴門市営球場  
参加者 30名(内、障がい者24名)

内容 野球をしたことのない障がい者の方の参加も増えてきており、楽しくプレーをしながら体力作りに取り組むことができた。徳島ウイングスの活動に興味・関心のある大学生や社会人チームのボランティア参加も増えており、多くの方が障がい者軟式野球のルールを学ぶ機会にもなった。



③車椅子バスケットボール教室(8回)

期間 平成30年9月~平成31年2月

会場 鳴門市勤労者体育センター  
参加者 総計96名(内、障がい者32名)

内容 障がい者と健常者が共に車椅子バスケットボールを楽しむ教室として開催すると共に、鳴門教育大学、四国大学の学生の参加もあり、障がい者スポーツを知ってもらう機会にも繋がった。



④車椅子ソフトボール教室(2回)

開催日 平成31年2月16日(土)・2月23日(土)

会場 鳴門市勤労者体育センター

参加者 17名(内、障がい者6名)

内容 障がいのある人が、気軽にスポーツを親しむきっかけづくりの一環として、車椅子ソフトボール体験会を実施した。車椅子ソフトボールは、「車椅子に乗りながら軟式野球使用球等を用いて行う新しい野球」がコンセプトにあり、障がい者スポーツの裾野を広げ、だれもが一緒に分け隔てなく同じフィールドで楽しむことができるスポーツとして普及・発展を目指して開催した。



NPO法人  
スポーツクラブ  
カバロス

①発達障がい・発達が気になる子の運動教室(5回)

期間 平成30年12月～平成31年2月

会場 徳島スポーツクラブ・カバロス「スタジオ」(4回)

沖洲マリナーミナル「マリンホール」(1回)

参加者 45名(内、障がい児40名)

内容 音が出るマットやとび箱を使ったサーキットトレーニングを行うなど、様々な運動を通じて脳と身体の活性化、表現力やコミュニケーション能力の向上等を目指し、運動教室を開催した。



(2) 関係機関と連携したスポーツ・レクリエーションイベントの実施

①Together Sports(パラスポーツ)体験会

日時 平成31年2月16日(土)10:00～12:00

会場 海陽町立海南小学校「体育館」

参加者 22名(内、障がい者8名)

内容 海陽愛♥あいクラブやスポーツ推進委員等の関係者と連携し、障がい者スポーツに日頃関わりの少ない子どもたちが、障がい者と共に、障がい者スポーツに触れ、体験することを通じて、障がい者や障がい者スポーツの理解を深めることを目的として、「ボッチャ」、「フライングディスク」、「ユニホック」、「レーサー試乗」などを実施した。

教職員の方の参加もあり、更なる障がい者スポーツの普及・啓発にも繋がった。



## ②ソフトバレーふれあい交流大会

日時 平成31年1月27日(日)8:40~17:00

会場 うだつアリーナ

参加者 222名(内、障がい者8名)

内容 徳島県精神保健福祉協会と連携して、全国障がい者スポーツ大会出場を目指す徳島県代表チームが、NPO法人うだつコミュニティスポーツクラブで実施しているソフトバレーボール交流大会に参加して、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむことを目的に開催した。



## (3)障がい者と健常者が一緒に楽しめる場を創る人材の研修

### ①障がい者スポーツセミナー

日時 平成30年9月17日(月・祝)10:00~12:00

会場 アスティとくしま 2階「会議室」

講師 安藤佳代子氏(日本福祉大学スポーツ科学部助教)

参加者 32名

内容 徳島県障がい者スポーツ協会と連携して実施し、総合型クラブや各種スポーツ関係団体、スポーツ指導者が参加して、障がいのあるなしに関わらず共に楽しめるスポーツ活動の実際の活動事例やイベント運営のノウハウを学んだ。  
具体的には、障がい者スポーツ推進の意義、スポーツ活動の場面での障がい者との接し方等を学んだ。  
また、参加者アンケートの結果から、セミナー実施の効果とあい路、今後の取組みについて参考となる意見をいただいた。(別紙参照)



## (4)その他、普及啓発のための広報活動

### ①障がい者スポーツ関連事業の周知

徳島県障がい者スポーツ協会が実施する「出張スポーツ教室」の開催案内を総合型クラブに発信している。

### ②障がい者スポーツの普及啓発

期日 平成30年9月17日(月・祝)

会場 アスティとくしま

内容 徳島青年会議所が主催の「徳島スポーツフェスティバル」にて、車椅子バスケの体験ブースを設置するとともに、総合型クラブで実施している障がい者スポーツ関連情報を配布して障がい者スポーツへの理解と普及・啓発を図った。



期日 平成30年12月15日(土)

会場 吉野川交流センター

内容 とくしま県民活動プラザが実施の「ヨッピー・ピッピータウン事業」にて、障がい者スポーツの普及・啓発や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての機運醸成を目的に、参加した子ども達や保護者に向けて障がい者スポーツ関連情報を配布する等、普及・啓発を行った。



期日 平成31年1月17日(木)  
会場 阿波市伊沢公民館  
内容 阿波市内の総合型クラブを対象に今後クラブが「障がい者スポーツ」への取組を実践するにあたり、障がい者スポーツ関連情報を配布して障がい者スポーツへの理解と普及・啓発を図った。



期日 平成31年2月23日～3月31日  
会場 勝浦町 ビックひなまつり会場  
内容 「阿波勝浦ビッグひな祭り」は、日本を代表するひな祭りイベントとして、リオデジャネイロ・オリンピックのジャパンハウスで展示された。これを機会に2020年に開催される東京オリンピックでの展示を目指していることもあり、3大国際スポーツ大会及び障がい者スポーツのPRブースを設けて来場者に周知した。



#### 4 実施の効果とあい路

本年度は、総合型クラブがこれまで培ってきた活動や地域ネットワークを活かし、2つの総合型クラブ(NPO法人あいずみスポーツクラブ、NARUTO総合型スポーツクラブ)の取組をモデルとして内容の充実を図ることにより、障がいのある方のスポーツ環境の充実、健康づくりを促進するとともに、新たな総合型クラブ(NPO法人スポーツクラブカバロス)の取組において、発達が気になる子どもたちのふれあう機会の充実や健康増進、支援者の拡大等に繋がった。

こうした取組をモデルとして、他の総合型クラブへ普及・啓発することにより、障がい者スポーツの取組を検討したり、障がい者スポーツ指導員資格講習会に参加するなどの総合型クラブが増えてきている。

また、各事業の実施を通じて、県障がい者スポーツ協会、社会福祉協議会、障がい者作業所等の障がい者支援組織等と連携するとともに、新たに設置された「にし阿波・パラスポーツ推進協議会」とも繋がることができ、今後の連携方策において大きな成果となっている。

障がい者野球や精神障がい者のソフトバレーボールなどの各種競技においては、競技力の向上を図ることができた。さらに、障がい者野球の活性化から、本県で今まで実施していなかった車椅子ソフトボールの普及にも繋がった。

また、こうした活動を通じて大学生等のボランティアとの関わりが増えることで、障がい者スポーツに関わる人材養成にも繋がり、障がい者と健常者がふれあい、交流を深め、お互いの存在を尊重し認め合うことができた。

「障がい者スポーツセミナー」は、障がいや障がい者スポーツの理解を深める上で、多くの参加者にとって有意義な取組となり、セミナー受講がきっかけで障がい者スポーツ指導員資格取得に繋がった例もあった。

東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて機運が高まっている機会を活用し、障がい者スポーツの普及・啓発を促進することができた。

一方、障がい者スポーツの推進に関わる総合型クラブが増え始めているが、障がい者の会員増には、まだ繋がっていない。また、会員に対して、障がい者スポーツの理解を促進する体験会などの普及・啓発は少ない。

本事業に参加する障がい者は積極的・意欲的に取り組んでいるが、障がい者のスポーツ未実施者の掘り起こしができていない。

借用できる車いすバスケットなどの競技用車いすが身近にあることが望ましい。  
身近な地域に活動拠点があることが望ましい。

#### 5 おわりに

総合型クラブが障がい者スポーツの推進に取り組むことにより、地域で暮らす障がい者などが普段体験できないスポーツ体験や活動ができた。今後は、体験の場づくりや指導の質を高めるために徳島県障がい者スポーツ指導者連絡協議会との連携も密にしていきたい。

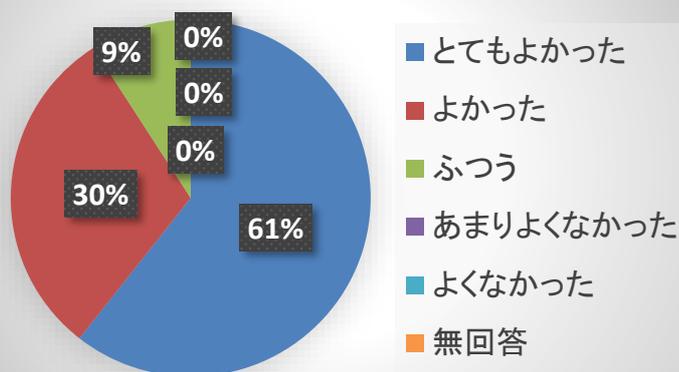
本年度の事業で課題となった、障がい者スポーツの理解促進及び障がい者のスポーツ未実施者の掘り起こしについては、障がい者スポーツ体験会を実施するなど、きっかけづくりを行い、改善を図りたい。

県内の総合型クラブが、障がいの有無に関わらず、“だれもが・いつでも・どこでも”身近な地域でスポーツを楽しみ、交流できる環境となるようこうした取組を続けたい。

## 障がい者スポーツセミナー参加者アンケート結果

- 1 実施日 平成30年9月17日(敬老の日・月)
- 2 会場 アスティとくしま 2階 第2会議室
- 3 参加者 32名
- 4 実施方法 事前に配布し、講習会終了後に回収
- 5 回答数 32名(回答率100%)
- 6 結果

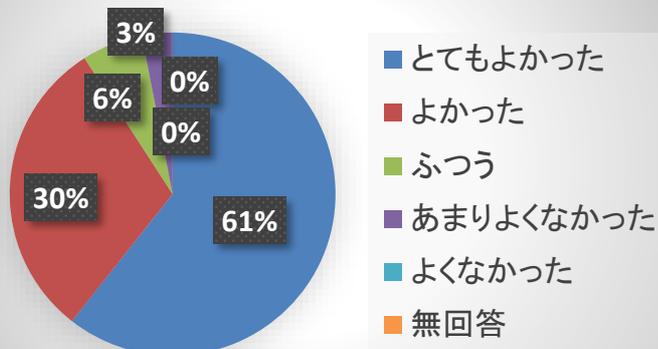
### 問1ー講義の内容は、いかがでしたか。



### 問1ー自由記載

- ・ドイツのブルコマーシャルを見て、障がい者スポーツの入り方の意識の違いに驚いた。車いすに乗ることが、その競技の条件であれば、道具の一つとして使う感覚が身近になった気がする。一緒に楽しむことの目的のために入り方を自分なりに幅を広げていきたい。
- ・知識が増えて良かった。
- ・分かりやすく、とても良かった。
- ・障がい者の走り幅跳びの選手が、オリンピックに出られるかどうかなどのところは難しかったけれど、全体的にわかりやすく、この講義のことを広めたいと思った。
- ・障がいに対する見方、接し方を考える、いい機会になった。普段接することが少ないが、考えていきたい。
- ・パラリンピックのドイツの状況を画像を使って説明してくれて、とても分かりやすかった。
- ・パラリンピックの話が長すぎ。
- ・時間的にもう少しあっても。

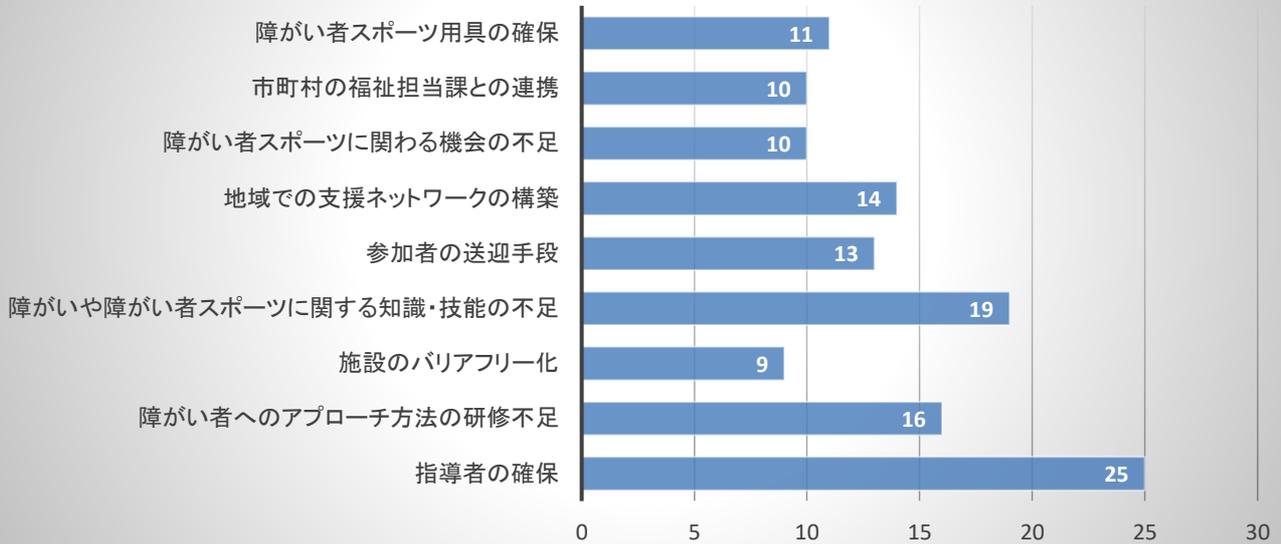
### 問2ーセミナーに参加してよかったですか。



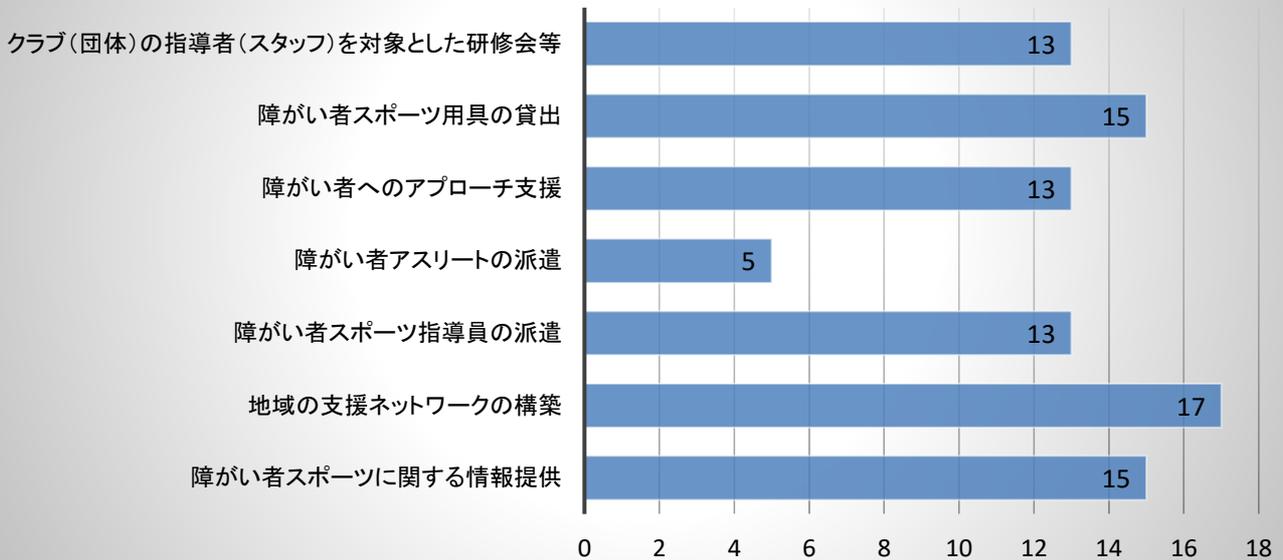
### 問2ー自由記載

- ・障がいに関わる機会が多く、余暇・健康・趣味を兼ねてスポーツを取り入れたい。まだまだ選択肢が少ないのでは。施設面、お互いの精神面の壁が大きいと感じる。
- ・理解しているつもりだったが、知らなかった部分が多かった。
- ・わかりやすいセミナーだった。
- ・クイズなどがあって楽しかった。
- ・新しい情報の提供に、とても良かった。
- ・パラスポーツへの理解が深まった。

**問3－障がい者の参加を促進する上で、課題は何ですか。  
(複数回答可)**



**問4－障がい者の参加を促進するため、希望する支援は何ですか。(3つ以内)**



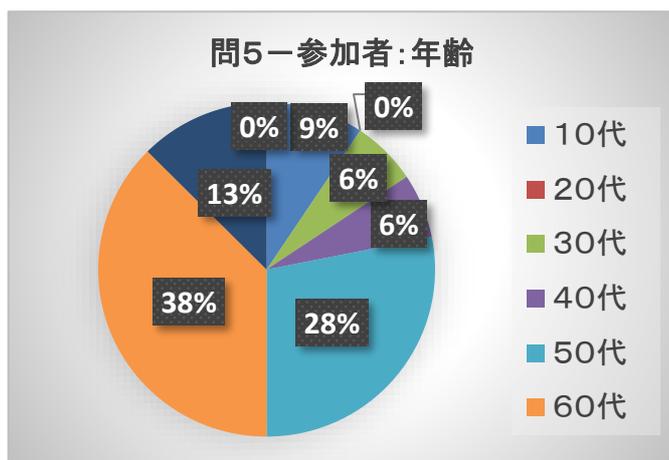
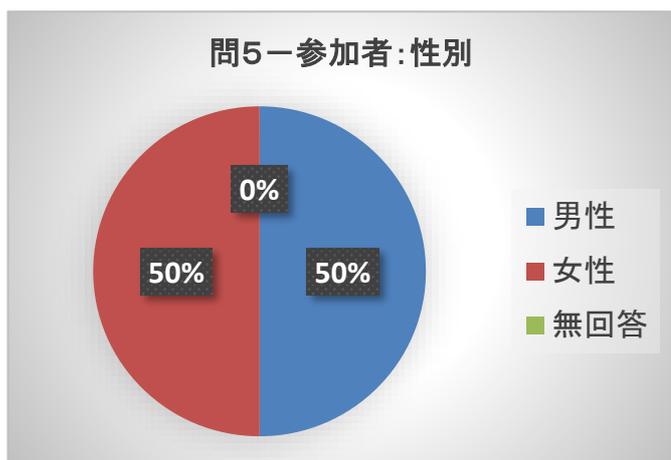
問5—ご意見・ご感想・ご質問等ありましたら、ご自由にお書きください。

#### 意見・感想

- ・スポーツが楽しめる地域にできるように、頑張りたいと思った。
- ・障がい者スポーツの実施に際し、環境・人員等何もかもが揃っていない。
- ・いろいろな情報を提供してもらえるとありがたい。
- ・車椅子(バスケ用)の貸出があれば利用したい。
- ・スポーツクラブだけでなく、教職の方などにもこのような機会をもっていただきたいと思った。
- ・次もぜひ参加したい。
- ・パラリンピック(パラ種目)関連をもう少し聞きたい。
- ・実体験でのやり方を。
- ・このようなセミナー・勉強会に定期的に参加し、理解を定着させていきたい。
- ・理解しやすい内容で聞きやすかった。
- ・すごく参考になった。

#### 質問

- ・障がい者スポーツ指導員初級資格の取得方法について。
- ・健常者の多いスポーツ少年団の障がい者の受入れについて。
- ・障がい者へのルールを理解方法。



## Ⅲ－４ 持久水泳普及事業（ふれあいスイミング・持久水泳認定会）

岡田企画株式会社（徳島県障がい者スポーツセンター指定管理者）

### 1. 事業の目的

従来の水泳に加え、水中歩行・水中体操など水を媒体にした運動は、障がいの有無に関わらず誰でもが気軽にできる運動である。また、水の持つ特性（水圧・浮力・抵抗・水温等）を十分に活用することにより、陸上運動に比べ様々な効果が期待できる。事業においては、これらのことを踏まえ参加者が生涯に亘って積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲を育むことを狙いとする。

最終的には、参加者の努力に対して認定会を開催することにより保護者共々、達成感や満足感を得ることができることを目的とする。

### 2. 事業の概要

#### （1）普及促進基礎事業「ふれあいスイミング」

県内の特別支援学校生徒の障がい特性にあった水泳レッスンを実施し、水泳の楽しさを仲間同士で感じてもらう。また、水の特性を活かし「遊ぶこと」「浮くこと」「掻くこと」「蹴ること」を習得することにより、効果的な持久的身体能力の向上を目指す。

さらには、水に浮くこと、呼吸の確保、進むことができる、というような安全面を意識したレッスンを実施する。

#### （2）普及促進支援事業「持久水泳認定会」

基礎事業の努力目標、事業効果確認のため支援事業として開催する。自由な泳ぎ（浮き具の装着も可）でプールサイドに掴まることなく、プールの底に着足することなく、指定された時間（7分・10分・20分・30分）を泳ぐ（回遊する）こと、または浮いていることができれば認められる認定会を実施する。参加者は泳ぎ終われば十分な達成感や充足感を得ることができ、水中運動参加への大きな動機づけとなる。

### 3. 事業の内容

#### (1) 普及促進基礎事業「ふれあいスイミング」

##### ①国府支援学校中学部1年生ふれあいスイミング

- ・期 日： 平成30年10月25日（木）
- ・場 所： 徳島県立障がい者交流プラザ 障がい者スポーツセンター温水プール
- ・内 容：

時間	内容
9:40	マイクロバス2台に分乗し国府支援学校出発
10:00	スポーツセンター到着,更衣
10:10	プールサイド集合,挨拶,体操後プールレッスン開始
	<p>対象者を3グループに分け,泳力別でレッスンを実施</p> <p>(1班) 生徒6名,支援教員6名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛けキック</li> <li>・水中歩行</li> <li>・顔つけ,バブリング,ボビング</li> <li>・ビート板を持ち水中歩行</li> <li>・ビート板キック</li> </ul> <p>(2班) 生徒8名,支援教員2名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛キック</li> <li>・水中歩行→ジャンプで水中移動</li> <li>・顔つけ,バブリング,ボビング</li> <li>・壁キック</li> <li>・ビート板キック</li> <li>・背浮き</li> </ul> <p>(3班) 生徒8名,支援教員1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・顔つけ,バブリング,ボビング</li> <li>・水中歩行</li> <li>・背浮き</li> <li>・背面キック</li> <li>・背泳ぎ</li> </ul>

11:00	プールレッスン終了,更衣
11:20	マイクロバス2台に分乗しスポーツセンター出発
11:40	国府支援学校到着

②国府支援学校中学部2年生ふれあいスイミング

- ・期 日： 平成30年11月1日（木）
- ・場 所： 徳島県立障がい者交流プラザ 障がい者スポーツセンター温水プール
- ・内 容：

時間	内容
9:30	マイクロバス2台に分乗し国府支援学校出発
9:50	スポーツセンター到着,更衣
10:00	プールサイド集合,挨拶,体操後レッスン開始
	<p>対象者を3グループに分け,泳力別でレッスンを実施</p> <p>(1班) 生徒7名 支援教員4名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛キック</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・ビート板キック</li> <li>・ビート板持って顔付けてバタ足</li> </ul> <p>(2班) 生徒6名 支援教員3名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛けキック</li> <li>・水中歩行</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・壁キック</li> <li>・ビート板キック</li> <li>・ビート板持って顔付けてバタ足</li> <li>・ビート板を持ってクロールの手の練習</li> <li>・背浮き</li> </ul> <p>(3班) 生徒9名 支援教員1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腰掛けキック</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏し浮き</li> <li>・背浮き</li> <li>・面かぶりキック</li> <li>・面かぶりクロール</li> <li>・背面キック</li> <li>・背泳ぎ</li> <li>・先生からのリクエストで2コースを使用し競争</li> </ul>
11:00	プールレッスン終了,更衣
11:20	マイクロバス2台に分乗しスポーツセンター出発
11:40	国府支援学校到着

③国府支援学校中学部3年生ふれあいスイミング

- ・期 日： 平成30年11月29日（木）
- ・場 所： 徳島県立障がい者交流プラザ 障がい者スポーツセンター温水プール
- ・内 容：

時間	内容
9:30	マイクロバス2台に分乗し国府支援学校出発
9:50	スポーツセンター到着,更衣
10:00	プールサイド集合,挨拶,体操後レッスン開始
	<p>対象者を3グループに分け,泳力別でレッスンを実施</p> <p>(1班) 生徒5名 支援教員4名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛キック</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・ビート板キック</li> <li>・ビート板持って顔付けてバタ足</li> </ul> <p>(2班) 生徒9名 支援教員2名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛けキック</li> <li>・水中歩行</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・壁キック</li> <li>・ビート板キック</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビート板持って顔付けてバタ足</li> <li>・ビート板を持ってクロールの手の練習</li> <li>・背浮き, 背面キック</li> </ul> <p>(3班) 生徒7名 支援教員1名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腰掛けキック</li> <li>・水中歩行</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・背浮き</li> <li>・背面キック</li> <li>・背泳ぎ</li> <li>・先生からのリクエストで2コースを使用し競争・リレー</li> </ul>
11:00	プールレッスン終了,更衣
11:20	マイクロバス2台に分乗しスポーツセンター出発
11:40	国府支援学校到着

④鳴門教育大学附属特別支援学校小学部ふれあいスイミング

- ・期 日： 平成30年12月13日 (木)
- ・場 所： 徳島県立障がい者交流プラザ 障がい者スポーツセンター温水プール
- ・内 容：

時間	内容
9:50	マイクロバス2台に分乗し鳴門教育大学附属特別支援学校出発
10:05	スポーツセンター到着,更衣
10:15	プールサイド集合,挨拶,体操後レッスン開始
	<p>対象者を3グループに分け,泳力別でレッスンを実施</p> <p>(1班) 生徒5名 支援教員4名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛けキック</li> <li>・プールサイド持ってジャンプ</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・おもちゃ拾い, ボール投げ</li> <li>・フロアの上をワニ歩き→バタ足</li> <li>・ビート板キック</li> <li>・スベリ台</li> </ul>

	<p>(2班) 生徒 7 名 支援教員 4 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛けキック</li> <li>・水中歩行</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・壁キック</li> <li>・ビート板キック</li> <li>・ビート板持って顔付けてバタ足</li> </ul> <p>(3班) 生徒 6 名 支援教員 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水慣れ</li> <li>・腰掛けキック</li> <li>・水中歩行</li> <li>・顔付け,バブリング,ボビング</li> <li>・背浮き</li> <li>・ビート板キック</li> <li>・背面キック</li> <li>・背泳ぎ</li> <li>・ビート板キック, 水中歩行で競争</li> </ul>
10 : 50	プールレッスン終了,更衣
11 : 15	マイクロバス 2 台に分乗しスポーツセンター出発
11 : 30	鳴門教育大学附属特別支援学校到着

(2)普及促進支援事業「持久水泳認定会」

- ・期 日： 平成30年11月23日（金）
- ・場 所： OKいしいパーク四銀いしいドーム温水プール
- ・対 象： 障害のあるなしにかかわらず，4歳～一般の方（保護者・介助者）
- ・参加者： 7分参加者・・・ 30名  
10分参加者・・・ 23名  
20分参加者・・・ 15名  
30分参加者・・・ 33名

合計・・・101名

(内訳)

- 幼 児・・・・・・・・ 2名
- 小学生・・・・・・・・ 62名
- 中学生・・・・・・・・ 7名
- 10代・・・・・・・・ 4名
- 20代・・・・・・・・ 2名
- 30代・・・・・・・・ 4名
- 40代・・・・・・・・ 3名
- 50代・・・・・・・・ 4名
- 60代・・・・・・・・ 7名
- 70代・・・・・・・・ 3名
- 介助者・・・・・・・・ 3名
- 内（障がい者（児））・・・ 18名

内 容 :

時間	内容
8 : 4 5 ~ 9 : 1 5	<p>参加者受付開始</p> 
9 : 2 0 ~	<p>開会式</p>  <p>プールサイドにて開会式。 認定上の注意などを聞き、認定開始の時間を待つ。</p>  <p>徳島ライフセービングクラブに監視員として協力いただき、参加者の安全面の確保。</p>

9 : 4 0 ~

2 0 分間持久水泳認定 1 組



一人ずつ名前のコールを受け，入場ゲートをくぐり，持久水泳認定会への意気込みを一言。



1 0 : 1 0 ~

7 分間持久水泳認定会 1 組



親子でエントリー。頑張ります！！

10:25～

7分間持久水泳認定会2組



一緒に頑張って泳ぎます！

10:40～

30分間持久水泳認定1組



30分間長い時間ですが、会場内からの声援を受け、全員完泳しました。

10:50～

20分・7分間完泳者認定証授与



認定証は一人一人手渡され満面の笑みを浮かべる人や少しはにかんだ表情を浮かべる人など・・・しかし皆さん達成感に満ち溢れた表情でした。

	
11:20～	<p>10分間持久水泳認定1組</p>  <p>最後まで力強い泳ぎで完泳しました。</p>
11:40～	<p>30分間持久水泳2組</p>
12:30～	<p>30分・10分間完泳者認定証授与 閉会式</p>   <p>認定証を一人一人受け取り、 第4回持久水泳認定会全てのプログラム終了。</p>
13:00	<p>終了</p>

## 4 成果及び評価

### (1)普及促進基礎事業「ふれあいスイミング」

国府支援学校においては、今回は中学部の生徒が対象であり、前回の小学部の生徒を対象にした事業とは違った雰囲気があった。ただ、中学生になると泳力はさすがに高く、指導する側からすると断然取り組みやすく感じた。また、挨拶の仕方や立ち居振舞いからは、学校以外での場所という不安感もなく水泳のレッスンに取り組むことができ、技術の習得ができていた。

さらに、生徒と指導者が一緒になって行うリレー競争の場面では、力いっぱい仲間を応援する姿や、勝敗によって浮かべる表情にはさまざまな笑顔を見ることができ、ふれあいスイミング実施の意義を感じることもできた。

鳴門教育大学附属特別支援学校においては、昨年同様、経験者が多く、水に浮くこと、呼吸の確保、進むことなどに前回以上の向上が見られ、継続することの重要性を感じた。

また、今年度もプールギャラリーには多くの保護者が参観に来られていたが、その校外での活動を目の当たりにする表情からは、子供たちの社会参加へのモチベーションのアップに繋がるのではないかと感じた。

### (2)普及促進支援事業「持久水泳認定会」

今回の認定会は、昨年より30名ほど少ない101名の参加であったが、大きなトラブルもなく参加者全員が自分に課した目的の時間を完泳することができた。

また保護者や付き添いの方はプールサイドから大きな声援を送り、泳ぎ終わったときには大きな拍手で称えていた姿は印象的であった。

残念なことは、昨年より参加者が減少したことであるが、これは目標設定時間が毎年同じであり、毎年参加する方の目標がマンネリ化し、モチベーションが下がったのが原因であると考えられる。ただ、目標設定時間を増やすことは、認定会全体の開催時間を延ばすことになり、それが参加者の負担になることも考えられるので、次回以降の検討課題でもある。

## 5 おわりに

スポーツ（水中運動）を好まない人に、どのようにスポーツへの参加をアプローチしていけばよいのか、また続けられない人に、どのようにアプローチしていけばよいのか、毎回疑問が残る。しかし、これを解決するには我々主催者だけで考えるのではなく、本事業をとおして連携し繋がりを持つことのできた各支援学校や先生方、また参加者やその保護者などとの関係を大切にすることにより、実際に参加する側の考えや意見を集約し、検討することが一番の近道であると考えている。





平成30年度スポーツ庁委託事業  
「障害者スポーツ推進プロジェクト」  
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

平成30年度障がい者スポーツ推進プログラム  
2019年3月 発行

発行 徳島県保健福祉部障がい福祉課